

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA01
授業科目名	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際			担当教員名	田代 高章		
授業科目名：英語	Theory and Reality in Designing a Distinctive Curriculum						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	4	EA01			
【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	学部レベルでの「教育方法」「教育課程」に関する事前復習をしておくこと（関連の市販教科書レベルの文献を読んでおくこと）が必要。						
担当教員情報	氏名（カナ）	田代 高章（タノ タカチ）					
	担当教員名（英語）	Takaaki Tashiro					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-517					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/396_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/36510417yumanite					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜 12:10～13:00を基本とする。但し、それ以外でも対応可。要相談を要する。						
他の担当教員							
キーワード	カリキュラム開発、カリキュラム・マネジメント、校種間接続、キャリア教育、地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	岩手大学大学院の学位授与方針の6つのすべてと関連した授業。理論と実践の融合を目指し、協議や発表の場を創りながら、その成果を学校現場で還元していくことを目指す。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	25%	30%
授業の目的	カリキュラム・マネジメント、カリキュラムデザインの基礎理論をもとに、自分自身で、現在の岩手の教育課題に即したテーマで、カリキュラム開発し、実践に応用しながらカリキュラム評価を通じて、カリキュラムの立案・実施・評価・改善のカリキュラム全体の見通しを考えられるようになること。 なお、本科目は（専修免許：幼・小・中・高）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	自己課題に即して、現状把握を踏まえ、マネジメントサイクルを意識しながら、カリキュラム開発ができること。および、デザインしたカリキュラムを教育実践に応用しながら、常により良いカリキュラムの修正・改善を構想できること。						
授業の概要	岩手の教育課題の確認と、現在の岩手の学校で必要な教育課題を踏まえ、取り上げる必要のある教育課題をいくつか抽出して、その課題に応じたカリキュラム開発を行う。一定の指標に基づきながらカリキュラム構想を全員で共有し、実践場で活用しうるカリキュラム改善案を検討し、提案・発表する。 なお、後期の「学習指導要領とカリキュラム開発」と関連させており、後期に向けての基礎段階と位置づけている。						
実務経験の有無と授業内容への反映	研究者教員と実務家教員のチームティーチング方式で指導するが、教職大学院の特質として、理論と実践の融合・往還により、何よりも教育実践に生かせることを念頭に大学院担当教員の知見や学校経験を授業内容にも生かすこととする。						
授業の形式	講義や解説等も取り入れるが、演習に近い。個人のみならず、グループワークを重視するアクティブ・ラーニング型授業であり、実態調査や外部向けのレポート発表も取り入れる。						
授業時間外の学習/予習・復習	文献調査や教育行政機関への聞き取り調査、学校調査など、授業時間外での活動も含まれる。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス ：授業全体の概要説明。 基礎概念の確認。 課題の確認。			教育課程・カリキュラムについて、事前に学習しておく（関連文献や学習指導要領等を読む）。			
2	院生によるキーワードの解説1 ：学習指導要領改訂に関わる、いくつかのキーワードについて、学卒院生が分担して、背景（なぜ重視されるのか）・内容・想定される効果、課題（理論的・実践的）について報告。			学卒院生で担当分担に応じて、情報収集、発表準備を行う。			
3	院生によるキーワードの解説2			学卒院生で担当分担に応じて、情報収			

3	: 学習指導要領改訂に関わる、いくつかのキーワードについて、学卒院生が分担して、背景（なぜ重視されるのか）・内容・想定される効果、課題（理論的・実践的）について報告。	集、発表準備を行う。	
4	カリキュラム・マネジメントの理解（定義と内容、学校カリキュラムにおける意義の確認）	カリキュラム・マネジメントの意義について事前に調べておく。教育課程との異同も。	
5	岩手の教育課題の理解（岩手の教育課題について理解する。その上で今期の探究課題を決定し、課題毎にグループ分けを行う。課題に即した特色あるカリキュラムの全体計画を構想していく。カリキュラム構想に資する調査内容の吟味、調査対象の確定とアポイント取り等の事前準備）	『令和4年度 学校教育指導指針』（岩手県教育委員会発行）を事前に目を通しておき、岩手の教育課題として重要なものは何かを考えておく。	
6	学校カリキュラムの実際（勤務校の学校経営の全体計画、今期の検討課題に関わる全体計画を持ち寄り、学校教育目標、教育活動内容、評価等を報告し、各校の異同の整理と今後のカリキュラムづくりに向けてのイメージを持つ。）	現職院生は、自己の勤務校（前年度の勤務校）における全体計画を情報収集し、発表の準備をする。	
7	課題に即した探究活動1（文献収集、ネット環境での調査、聞き取り調査等、グループ毎の調査活動）	自分が担当するグループ課題について、事前に情報収集する。	
8	課題に即した探究活動2（文献収集、ネット環境での調査、聞き取り調査等、グループ毎の調査活動）	調査探究の方法について、グループ毎に有効な方法や内容を考える。（県教委訪問？）	
9	課題に即した探究活動3（収集・調査した資料に基づく、分析と整理内容のカリキュラム全体計画の第1次発表と検討の続き）	収集した情報の精査と分析。	
10	探究課題に即した中間発表（グループ毎に、探究課題に即した中間報告を行う。探究課題に関するカリキュラム案の成果と課題を確認し、今後の再検討に向けて改善の見通しを持つ）	各グループにおいて中間発表の事前準備、発表後の要修正点の整理をする。	
11	課題に即した再探究活動1（グループ毎に、課題に即した改善のための再探究活動の計画立案と再探究活動）	中間まとめの課題を踏まえつつ、追加の情報収集・整理分析を行う。	
12	課題に即した再探究活動2（グループ毎に、課題に即した改善のための再探究活動の計画立案と再探究活動の続き）	中間まとめの課題を踏まえつつ、追加の情報収集・整理分析を行う。	
13	最終発表会準備（再探究活動による、カリキュラムの全体計画の改善とそれに基づく発表準備）	最終発表会における資料確認も含めて発表準備を行う。	
14	最終発表会と全体まとめ	発表会での助言を受けて、授業終了後に、修正カリキュラム案の検討・作成を各グループ内で行い、グループ毎に期末課題となる修正カリキュラム案をレポートとして提出。各個人も前期の活動の成果と課題をレポート提出する。	
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	20%				
	iカード	0%				
	小テスト	20%				
	授業中の課題解決活動	35%				
期末レポート	25%					

評価の基準（具体的に）

出席は前提条件。初回ガイダンスとそれ以降の授業の中で確認していく。いくつかのユニットで課題を提示し、その課題を解決していくプロセスも含めての全体評価とする。いわゆる、パフォーマンス課題に基づく、パフォーマンス評価が中心となる。具体的な評価観点、評価基準については、授業の中でも確認していく。

履修における留意点	講義内外での活動や、受講生間の意見交流も含めて展開していくが、授業前後での教室外学習も想定している。
-----------	--

履修における留意点	現時点では、対面授業を基本とするが、状況によって遠隔授業、遠隔授業と対面授業のハイブリッドもありうる。
教科書 / 教材	
参考文献	天笠茂、『カリキュラムを基盤とする学校経営』、ぎょうせい、2013年 田村知子他、カリキュラムマネジメントハンドブック、ぎょうせい、2016年、9784324100837
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA03
授業科目名	学力の向上と学習意欲			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Scholastic Ability Improvement and Learning Motivation						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	月	2	EA03			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員							
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」「専門性に基づいた問題解決能力」の達成に寄与している。」			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	明治時代からの日本の学力観について整理し、学力とは何かをまとめ、その向上のために試案を作成することができる。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	学力観について、どのように捉えられてきたかを過去の資料から学び、今目指すべき学力とは何かについて検討する。その検討に基づき、これからの授業はどのように改善する必要があるかについて検討する。また、学力向上と学習意欲との関係について検討することができ、その検討の結果にと付いて、授業を構想できる。						
授業の概要	明治時代の学制発布から日本の学力観がどのように変遷してきたのかについて資料からまとめる。さらにその学力観に基づき、どのような指導が行われてどのような課題と成果があったかを検討する。また、児童生徒の学力向上と学習意欲との関係について先行研究に基づいて検討する。その検討結果を踏まえて、これからの授業の在り方について検討し、実習において実践検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及び演習						
授業時間外の学習/予習・復習	なし						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	オリエンテーション			学力向上についての課題の整理			
2	アクティブラーニングについて1			アクティブラーニングの中教審答申を読む			
3	アクティブラーニングについて2			アクティブラーニングの課題を考える			
4	アクティブラーニングについて3			アクティブラーニングの在り方を考える			
5	模擬授業の指導案作成1			模擬授業の案を作成			
6	模擬授業の指導案作成2			模擬授業の案を作成			
7	模擬授業の指導案作成3			模擬授業の案を作成			
8	模擬授業の実施と、授業検討1			模擬授業の課題の整理			

9	模擬授業の実施と、授業検討2	模擬授業の課題の整理				
10	模擬授業の実施と、授業検討3	模擬授業の課題の整理				
11	模擬授業の実施と、授業検討4	模擬授業の課題の整理				
12	模擬授業の実施と、授業検討5	模擬授業の課題の整理				
13	授業の振り返りと改善1	模擬授業の課題の整理，今後の授業の在り方を考える				
14	授業の振り返りと改善2	模擬授業の課題の整理，今後の授業の在り方を考える				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	50%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	40%				
期末テスト	10%					
評価の基準（具体的に）						
学力について調査レポートの内容5割，授業の提案の内容5割						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA05
授業科目名	学校カウンセリングの理論と実践			担当教員名	山本 奨		
授業科目名：英語	Theory and Practice in School Counseling						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	2	EA05			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻の科目です。						
担当教員情報	氏名（カナ）	山本 奨（ヤマモト ススム）					
	担当教員名（英語）	Yamamoto, Susumu					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-522					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/675_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/6543					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜5時限（要予約）						
他の担当教員							
キーワード	カウンセリング、臨床心理学、counseling、Clinical psychology						
学位授与方針との関係	本科目は、教育学研究科の学位授与方針の「専門分野の基礎的な知識」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」に寄与するものである。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	40%
授業の目的	児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面等の諸問題について、カウンセリング等の諸理論をふまえて、学校という場にふさわしい視点で対処するための理論と方法を習得する。なお、本科目は（専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面等の諸問題について、カウンセリング等の諸理論をふまえて、学校という場にふさわしい視点で対処するための理論と方法を活用できる。特に現職院生については、学卒院生とのグループワークや意見交換を通して、学校の教育相談力向上の観点から適切なコンサルテーションを実現できる実践力を獲得するとともに、学校教育目標実現のために教育相談を活用する視点を獲得する。学卒院生については、現職院生との学修を通して、教育目標の達成と教育相談の機能との関連を理解し実践的な介入方法を獲得する。						
授業の概要	学校生活における児童生徒の心理・社会・行動面の諸問題についてカウンセリング等の諸理論をふまえて、学校教育という場にふさわしい視点で対処する実践的な方法について追究する。不登校や学校不適応など具体的なテーマを取り上げ、児童生徒への介入、教師集団に対するコンサルテーション、保護者に対する支援など、問題を解決するために有効な支援方法を獲得する。そこでは問題の査定、目標の設定、方策の選択という手続きが扱われる。併せて心理学的アプローチの習得を目指す。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義形式と演習による。						
授業時間外の学習/予習・復習	予定していない。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	学校場面で展開されるカウンセリングの意義と、児童生徒の変容目標の設定について、コンサルテーションの活用を踏まえて検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
2	児童生徒の諸課題を学習面、心理・社会面、進路面、健康面から捉えることの意義を、リソースの視点から検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
3	心理教育的援助サービスの技法と態度を概観し、それぞれの意味について、児童生徒への介入目標と関連させながら検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
4	児童生徒に対する直接的な援助的かわりに関			関係書籍・論文を基に学習すること			

4	する方法を、個別面接や集団面接、授業や部活動の場面から抽出し、理論との関連を検討する。					
5	児童生徒の状況等に関するアセスメント、提示された問題の解決目標の設定、支援方法の選択について検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること				
6	短期・長期のカウンセリングを区別しながら、テーマへの焦点の当て方、リソースの探し方、変容の把握の仕方について検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること				
7	感情に焦点をあてるとともに、主観的な理解と客観的事実を区別して扱い、児童生徒の内的世界と課題を理解する基本的手順について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
8	児童生徒が教師とのコミュニケーションを避けようとする理由と意味、児童生徒が自身の問題の解決を避けようとする理由と意味について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
9	児童生徒の陽性感情や陰性感情に含まれる意味とその扱いの要点を学ぶとともに、支援者側が注意すべき自身の感情の扱いと事故防止を学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
10	来談者中心療法等から学校場面で活用可能な考え方を抽出し、構成的グループエンカウンターなど集団への援用を含め、その応用を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること				
11	行動療法や短期療法から学校場面で活用可能な考え方や技法を抽出し、認知や解決、スキルへの焦点の当て方等、その応用について検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること				
12	個々の教師が直面する課題について、既に有効機能している資源や方法を整理し、新たな方策に結び付ける教師支援の在り方について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
13	教師集団の中で相互に、あるいは「作戦会議」を通して展開されるコンサルテーションの在り方とそれを機能させるための要点について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
14	学校内外の資源を結び付け児童生徒の支援と問題解決に繋げるコーディネーターの役割と各専門機関の特徴について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	30%				
	期末テスト	40%				
評価の基準（具体的に）						
以下による総合評価。全回ショートレポートを課す（30％）。理解を深めるために授業の中で討論を行うのでこれに積極的に参加すること（30％）。定期試験（レポートとする場合がある、40％）。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献	クララ・ヒル、ヘルピング・スキル：探求・洞察・行動のためのこころの援助法、金子書房、2014年 石隈利紀、学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育援助サービス、誠信書房、1999年					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA07
授業科目名	心理教育的援助サービスの理論と実践			担当教員名	山本 奨		
授業科目名：英語	Theory and Practice in Psychoeducational Support Services						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	4	EA07			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	受講できるのは教職実践専攻の学生です。						
担当教員情報	氏名（カナ）	山本 奨（ヤマモト ススム）					
	担当教員名（英語）	Yamamoto, Susumu					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-522					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/675_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/6543					
	個人サイト						
相談可能時間	各担当教員に問合せてください。						
他の担当教員	藤井 義久、田村 忠、山路 茜、鈴木 恵太						
キーワード	学校心理学、School psychology						
学位授与方針との関係	この科目は、教育学研究科の学位授与方針の「専門分野の基礎的な知識」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現		
		30%	30%	10%	30%		
授業の目的	学校心理学に基づく心理教育的援助サービスの考え方、意義、方法を理解し、被援助者の課題を査定し、介入方法を選択し、その成果を評価し、効果的な支援を実現することができる実践力の獲得を目的とします。なお、本科目は（専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	学校心理学に基づく心理教育的援助サービスの考え方、意義、方法を理解し、被援助者の課題を査定し、介入方法を選択し、その成果を評価し、効果的な支援を実現することができる。						
授業の概要	学校心理学に基づく心理教育的援助サービスの考え方、意義、方法を理解し、被援助者の課題を査定し、介入方法を選択し、その成果を評価し、効果的な支援を実現することができる。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義（演習を含む）						
授業時間外の学習/予習・復習	予定していません。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	学校心理学の定義、援助サービスの考え方および学校心理士の職務等について総括的講義を行う。			関係書籍・論文を基に学習すること		藤井（4月19日）	
2	学校心理学的援助の実際について、諸外国の事例に即して解説することを通して、今後期待される学校心理士の活動について解説する。			関係書籍・論文を基に学習すること		藤井（4月26日）	
3	学校心理士になるために必要な知識、技術および学校心理士が持つべき倫理について解説する。			関係書籍・論文を基に学習すること		藤井（5月10日）	
4	達成目標理論、自己効力を中心に学習性無力感の規定因を理解し、支援の方法を考える。			関係書籍・論文を基に学習すること		山路（5月17日）	
5	記憶のしくみとワーキングメモリの障害を理解し、適切な支援方法を学ぶ。			関係書籍・論文を基に学習すること		山路（5月24日）	
6	学習に関する援助要請の生起要因を理解し、支援の方法を考える。			関係書籍・論文を基に学習すること		山路（5月31日）	



7	特別支援教育の意義と制度、障害の概念と、その背景にある理念を理解し、学校現場での具体的な取り組みについて考える。	関係書籍・論文を基に学習すること	鈴木（6月7日）
8	4種類のヘルパーと三段階の心理援助サービスについて、特別支援教育の個別指導計画等の作成を通して学び、その意義を考える。	関係書籍・論文を基に学習すること	鈴木（6月14日）
9	特別支援教育の実施の場ごとの、あるいは特別な教育ニーズごとの授業づくりと支援について、具体的な取り組みについて考える。	関係書籍・論文を基に学習すること	鈴木（6月21日）
10	キャリア教育及びキャリアカウンセリングの実際を検討することを通して、直接的な援助サービスと校内支援体制の関係について学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること	田村（6月28日）
11	児童生徒に生じるストレス反応とトラウマ反応の経年変化と学校心理学に求められる支援の在り方を心理教育的援助サービスの視点から学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること	田村（7月5日）
12	学校カウンセリングの実践を、アセスメント、コンサルテーション、コーディネーションと関連付け、学校心理学の特色を踏まえながら学ぶ（グループアプローチを含む）。	関係書籍・論文を基に学習すること	山本（7月12日）
13	学校心理学の立場から、保護者自身や家庭や地域の資源を生かし、これらを繋げながら行う保護者へのコンサルテーションの在り方を学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること	山本（7月19日）
14	学校心理学（学校心理士）が行う「チーム援助」の考え方を理解した上で、教師に対する有効なコンサルテーションの在り方を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること	山本（7月26日）
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点	30%	
	iカード	0%	
	小テスト	0%	
	課題	30%	
期末テスト	40%		
評価の基準（具体的に）			
以下による総合評価。ショートレポートを課す（30%）。理解を深めるために授業の中で討論を行うのでこれに積極的に参加すること（30%）。定期試験（レポートとする場合がある、40%）。			
履修における留意点	教科書及び参考文献については、授業の初回並びに各教員からあらためて指示します。		
教科書 / 教材			
参考文献	文部科学省、幼稚園教育要領、小・中・高・特別支援学校学習指導要領、文部科学省 石隈利紀、学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育援助サービス、誠信書房、1999年 石隈利紀・田村節子、『チーム援助入門 学校心理学・実践編』、図書文化社、2003年 学校心理士資格認定委員会編、学校心理学ガイドブック第3版、風間書房、2012年		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA09
授業科目名	岩手の教育課題			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Challenges of Education in Iwate						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	1	EA09			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
	相談可能時間	随時					
他の担当教員	川上 圭一、中村 宗宏						
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」「専門性に基づいた問題解決能力」の達成に寄与している。」			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	岩手県特有の学校教育課題を俯瞰し、それらの課題を捉えことができ、それに対応する力を身に付けることができる。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するための」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	岩手県特有の学校教育課題を俯瞰し、それらの課題を捉えことができ、それに対応する力を身に付ける。						
授業の概要	(1)岩手県の学校の学力の現状とその課題を把握し、今後どのような取り組みが必要であるか検討する。(2)岩手県内の小規模複式学校や小中連携の実態を調査し、今後の指導の在り方について検討する						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及び演習						
授業時間外の学習/予習・復習	なし						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション			岩手県の教育課題を整理する			
2	岩手の教育課題（複式教育）1			復興教育について整理する			
3	岩手の教育課題（複式教育）2			復興教育について整理する			
4	岩手の教育課題（複式教育）3			復興教育について整理する			
5	岩手の教育課題（複式教育）4			復興教育について整理する			
6	岩手の教育課題（複式教育）5			復興教育について整理する			
7	岩手の教育課題（復興教育）1			複式教育について整理する			
8	岩手の教育課題（復興教育）2			複式教育について整理する			
9	岩手の教育課題（復興教育）3			複式教育について整理する			
10	岩手の教育課題（復興教育）4			複式教育について整理する			
11	岩手の教育課題（学力向上）1			学力向上について整理する			

12	岩手の教育課題（学力向上）2	学力向上について整理する				
13	岩手の教育課題（学力向上）3	学力向上について整理する				
14	岩手の教育課題（学力向上）4	学力向上について整理する				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	50%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	50%				
	期末テスト	0%				
評価の基準（具体的に）						
レポートの内容 5 割，授業の提案の内容 5 割						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EA10
授業科目名	専門職としての教員の在り方とその力量形成			担当教員名	高田 麻美		
授業科目名：英語	Developing Competencies of the Ideal Teacher						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	1	EA10			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	高田 麻美（タカガ アサミ）					
	担当教員名（英語）	Asami TAKADA					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	メール等でご連絡をいただければ面談の機会を設けます。						
他の担当教員	佐藤 進						
キーワード	教員の資質能力、教員養成・研修、教員のライフステージ						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の、2：専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3：高度な実践的指導力の基盤となる能力、4：専門性に基づいた問題解決能力等の達成に寄与する。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	専門職としての教員に求められる資質能力とその力量形成に関する理論的・実践的知見を修得して、「学び続ける教員」となることができるようにする。 (なお、本科目は専修免許(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化、複雑化した学校教育の諸課題に対し、専門職として教師にはどのような資質能力が求められているのかを理論的に説明できる。</li> <li>これまでの教育経験に照らしつつ、求められる資質能力をどのように形成できるのか、自分なりの見通しを立てることができる。</li> </ul>						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学研究に基づいた講義を行なうとともに、実践事例の演習形式を取り入れる。個人発表、ペアワーク、グループワークの機会を設け、主体的で省察的な学びとなるよう授業を構成する。</li> <li>院生がそれぞれのライフステージに応じ、「学び続ける教員」となるための理論的・実践的知見を修得できるよう工夫する。</li> <li>授業は基本的にパワーポイントや映像などの視聴覚メディアを用いながら進める。</li> <li>必要な資料等は授業のなかで配布する。配布資料が多いため、資料整理用のファイルを準備する。</li> </ul>						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義や演習、さらに院生の発表に基づいた協議を行なう。</li> <li>原則として対面形式だが、状況によってはオンライン授業に切り替える可能性がある。</li> </ul>						
授業時間外の学習/予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業終わりに小レポートを作成し、授業内容を振り返る。</li> <li>第3回と第4回に授業研究のグループワークを行なう。授業時間内にワークが完了しなかった場合、授業外に準備を進める。</li> <li>実習校における教育実践と教育実践研究に還元する。</li> </ul>						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	オリエンテーション 教師の「専門性」とは何か			予習：シラバスの確認 復習：本時の学修事項の復習		高田、佐藤	
2	援助者としての教師			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習		高田、佐藤	
3	授業研究の意義と実践(1)			予習：配布資料の確認		高田、佐藤	

3		復習：課題への取り組み	
4	授業研究の意義と実践(2)	予習：配布資料の確認 復習：発表資料の作成	高田、佐藤
5	教師像の変遷	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	高田、佐藤
6	育成指標を踏まえた教員としての力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	佐藤、高田
7	授業研究の意義と実践(3)	予習：発表のリハーサル 復習：本時の学修事項の復習	高田、佐藤
8	教職自己成長に向けた探究心(1)	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	高田、佐藤
9	教職自己成長に向けた探究心(2)	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	高田、佐藤
10	教育行政と学校との関わり	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	佐藤、高田
11	小学校教師の専門性と力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	実務家教員、佐藤、高田
12	中学校教師の専門性と力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	実務家教員、佐藤、高田
13	高等学校教師の専門性と力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習	実務家教員、佐藤、高田
14	特別支援学校教師の専門性と力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：期末レポートの作成	実務家教員、佐藤、高田
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	毎回の小レポート	30%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	授業への参加貢献度	30%	
	期末レポート	40%	
評価の基準（具体的に）			
<p>【小レポートと受講態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業終わりに小レポートを作成する。授業に関する意見・感想・疑問点をまとめることで、授業の内容を自分なりに整理する。</li> <li>・全体で共有すべきと判断される意見や質問は次の授業回で取り上げ、全体で検討する。</li> </ul> <p>【授業への参加貢献度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答や演習(個人発表やペアワーク、グループワーク)の参加意欲や貢献度を問う。</li> </ul> <p>【期末レポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目を通して理解したこと、考えたことを問う。</li> </ul>			
履修における留意点	・授業に関する諸連絡はメールとWebClassを併用する。WebClassの定期的なチェックを行なう。		
教科書 / 教材			
参考文献	アンディ・ハーグリーブスら著、木村優ら監修・翻訳、専門職としての教師の資本－21世紀を革新する教師・学校・教育政策のランドデザイナー、金子書房、2022年、9784760826827 勝野正章・村上祐介編著、放送大学大学院教材 教育行政と学校経営(新訂)、放送大学教育振興会、2020年、9784595141324		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EB01
授業科目名	学校マネジメントの理論と実践			担当教員名	川上 圭一		
授業科目名：英語	Theory and Practice in School Management						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	3	EB01			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	川上 圭一（加加ケイイチ）					
	担当教員名（英語）	Kawakami Keiichi					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟 508B					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜日の昼休み 等						
他の担当教員	鈴木 久米男、田村 忠						
キーワード	学校組織マネジメント、学校改善、PDCAサイクル						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の、2：専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3：高度な実践的指導力の基盤となる能力、4：専門性に基づいた問題解決能力等の達成に寄与する。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	30%
授業の目的	学校組織マネジメントの理論と実践に関する基礎的理解と知見を修得する。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」を養う。						
到達目標	学校組織マネジメントに関する基礎的事項を理解するとともに、学校における実践場面で活用することができる。						
授業の概要	学校の組織マネジメントの必要性や主たる理論的内容に関する講義に加え、学校の組織マネジメントの方法と実践に関する理論的知見と実践のための手法の修得を目指す。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義や演習、さらに院生の発表に基づいた協議 等						
授業時間外の学習/予習・復習	実習校や諸機関等での専門実習による実践						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス 学校マネジメントとは			予習：シラバスによる学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
2	学校における組織力向上			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
3	学校マネジメントとPDCAサイクル			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
4	学校経営に生かすコミュニティ・スクール制度			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
5	学校マネジメントと働き方改革			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
6	開かれた教育課程のマネジメントとは			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
7	学校における体力向上とは			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
8	学校におけるミドル・リーダーの役割			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			

9	学校運営とチーム学校	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
10	学校におけるリスク・マネジメント	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
11	マネジメントによる学校改善：学力向上	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
12	マネジメントによる学校改善：道徳、生徒指導	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
13	マネジメントによる学校改善：体力向上	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
14	マネジメントによる学校改善：地域との連携及び 本授業の総括	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%				
	iカード	0%				
	小テスト	30%				
	課題	40%				
	期末テスト	0%				
評価の基準（具体的に）						
授業における学修課題の発表や協議への取り組みの様子とともに、演習や課題への結果を成績判定の資料とする。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献	木岡一明、学校の”組織マネジメント能力”の向上、教育開発研究所					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EB04
授業科目名	教職員の職能成長に資する学校経営の実践と課題			担当教員名	鈴木 久米男		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in School Administration						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	2	EB04			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	鈴木 久米男（スズキキクメオ）					
	担当教員名（英語）	Kumeo Suzuki					
	所属						
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-314					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/827_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/_ku-suzu_					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜日の昼休み 等						
他の担当教員							
キーワード	教員の資質能力、教員養成・研修、教員のライフステージ						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の、2：専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3：高度な実践的指導力の基盤となる能力、4：専門性に基づいた問題解決能力等の達成に寄与する。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				20%	20%	30%	30%
授業の目的	専門職としての教員に求められる資質能力とその力量形成に関する理論的・実践的知見を修得して、「学び続ける教員」となることができるようにする。なお、本科目は、専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」を養う。						
到達目標	現代の多様化・複雑化した学校教育の諸課題に直面する教員には、専門職としてどのような資質能力が求められ、またそのための力量形成は如何にしたら形成されるのかについて、理論と実践の両面から理解させる。						
授業の概要	最新の教育学研究の成果の講義に加え、多くの実践事例の演習形式での検討を行い、院生がそれぞれのライフステージに応じ、「学び続ける教員」となるための、理論的・実践的知見を修得させる。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義や演習、さらに院生の発表に基づいた協議 等						
授業時間外の学習/予習・復習	実習校における実践						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス テーマの検討			予習：シラバスの確認 復習：本時の学修事項の復習			
2	学校ビジョンの役割と策定の手順			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
3	校長のとしての経営方針、学校びらき			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
4	校内研修の充実のために			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
5	カリキュラム・マネジメントとは			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
6	安全・安心な学校とするために			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
7	目標の連鎖を意識した教育活動とは			予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習			
8	働き方改革とは			予習：前時の学修内容の確認			



8		復習：本時の学修事項の復習	
9	いじめ防止の取り組み	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
10	子どもが生き生きとする学校経営とは	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
11	危機管理への対応	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
12	学力向上を図るために	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
13	特別支援教育の充実	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
14	人材育成のために	予習：前時の学修内容の確認 復習：本時の学修事項の復習	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	平常点	30%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	iカード	0%	
	小テスト	30%	
	課題	40%	
	期末テスト	0%	
評価の基準（具体的に）			
授業における学修課題の発表や協議への取り組みの様子とともに、演習や課題への結果を成績判定の資料とする。			
履修における留意点			
教科書 / 教材			
参考文献			
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC01
授業科目名	教科の指導と評価の実践研究			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Practical Research on Instruction and Evaluation of Subject Area						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	2	EC01			
主な対象学生	教育学研究科 授業力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	清水 将、中村 宗宏						
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」「専門性に基づいた問題解決能力」の達成に寄与している。」			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	教育活動における評価の役割についての理解を図り、効果的な評価の在り方について検討する。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	教育活動における評価の役割についての理解でき、効果的な評価の在り方について検討することができる。						
授業の概要	PISAや全国学力・学習状況調査の背景となる学力観やテスト問題の分析を通して、目指すべき学力とその評価方法について学ぶ。また、それに基づいて従来の学力観や評価に対する批判的検討を行い、学校改善の方向性を考察する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及び演習						
授業時間外の学習/予習・復習	なし						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	オリエンテーション			評価の課題の整理			
2	学習評価の目的、学習評価の一般的な手続き			評価の課題の整理			
3	評価規準と評価基準の違い、集団準拠評価、目標準拠評価、個人内評価			評価の課題の整理			
4	他者評価、自己評価、相互評価、診断的評価、形成的評価、総括的評価			評価の課題の整理			
5	単元及び授業における評価の方法、評価結果に基づく授業の改善			評価の課題の整理			
6	評価資料の収集の方法、評価結果に基づく個別支援			評価の課題の整理			
7	観点別評価の考え方、観点別評価の手順			評価の課題の整理			
8	理論に基づいて、評価計画の作成（実技教科以外の評価計画）			評価の課題の整理			
9	理論に基づいて、評価計画の作成（実技教科の			評価の課題の整理			

9	の評価計画)					
10	評価計画に基づく、模擬授業(実技教科以外)	評価の課題の整理				
11	評価計画に基づく、模擬授業(実技教科)	評価の課題の整理				
12	模擬授業の実践に基づく、評価計画の改善(実技教科以外)	評価の課題の整理				
13	模擬授業の実践に基づく、評価計画の改善(実技教科)	評価の課題の整理				
14	指導計画の改善に基づく、模擬授業	評価の課題の整理				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	50%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	50%				
	期末テスト	0%				
評価の基準(具体的に)						
レポートの内容5割, 授業の提案の内容5割						
履修における留意点						
教科書/教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC03
授業科目名	小学校英語の実践と課題			担当教員名	HALL JAMES MERIWETHER		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Elementary School English Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	3	EC03			
主な対象学生	教育学研究科 授業力開発プログラム 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	English						
履修上の条件	使用する言語は日本語と英語になります。						
担当教員情報	氏名（カナ）	HALL JAMES MERIWETHER（ホ-ルジ-エ-ムズ メリウエザ-）					
	担当教員名（英語）	James M Hall					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-439					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト	<a href="https://logos.edu.iwate-u.ac.jp/jhoffice/james-m-halls-homepage/">https://logos.edu.iwate-u.ac.jp/jhoffice/james-m-halls-homepage/</a>					
	相談可能時間	水曜日 12：00～13：00					
他の担当教員	小川 春美						
キーワード	小学校外国語、小学校外国語活動、4技能、アセスメント、地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	小学校教育における大きな改革の一つである「英語」について、その教科内容についての専門性と小学校教育のミドルリーダーとしての専門性を兼ね備えて、構想する力、実践する力をつける。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	25%	25%
授業の目的	外国語教育の基盤を構成する言語習得・様々な指導法・カリキュラム編成の理論・4技能（リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング）の指導法、アセスメントについての基礎的な理解とこれらに知識の応用力を目指す。この知識の基盤が、小学校の外国語教育の方針を定めるのに不可欠である。						
到達目標	(1) 第2言語取得論の観点から、日本の外国語教育の長所と短所を説明する。(2) カリキュラム編成の観点から、日本の外国語教育のカリキュラムを評価する。(3) 小学校英語における様々な指導方法を検証し、理論と実践に基づいて、効果的な指導法を提案する。(4) 小学校外国語の教科化に向けて、必要になった「アセスメント」と「読み・書きの指導法」の具体例を覚えて、学校で活用する。						
授業の概要	子どもがどのようにことばを獲得するかについて言語習得の理論を学び、その後、外国語能力の各領域に適した到達目標を特定する。次に、4技能（スピーキング、リーディング、ライティング、リスニング）の観点から日本小学校の外国語教育の利点と課題を特定する。今まで日本の小学校があまり扱っていなかった「リーディング」と「ライティング」の指導を学び、日本の小学校に適したリーディング・ライティングの指導法を提案し、実際にこの指導法を授業で実施する。						
実務経験の有無と授業内容への反映	附属小学校の先生から、学校の外国語のカリキュラムの話聞き、受講生はこのカリキュラムに合っている授業を提案し、附属小学校の先生から助言をもらう。						
授業の形式	講義、ディスカッション、授業計画、演習						
授業時間外の学習/予習・復習	附属等の授業見学、文献講読、教材作成						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	Orientation（オリエンテーション）コミュニケーション能力とは			シラバスを読むこと			
2	Basics of Second Language Acquisition（第2言語習得論の基礎）			英語教師のための第二言語習得論入門：第1章～第3章			
3	Basics of Second Language Acquisition（第2言語習得論の基礎）			英語教師のための第二言語習得論入門：第1章～第3章			
4	課題1：外国語のアセスメント（カリキュラム論）			TBA（追って通知します）			
5	課題1 小学校外国語のアセスメント（評価とヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR）			CEFR-Jガイドブック: Answer Q1, Q2, Q3, Q4, Q6, Q7, Q8, Q9, Q12, Q15, Q17, Q18 それぞれの受講生がJeremy HarmerのEssential Teacher's Knowledgeから一			

5		章をまとめて発表する	
6	課題2 小学校外国語のための4技能 (Listening and Speaking)	それぞれの受講生がJeremy Harmerの Essential Teacher's Knowledgeから一章をまとめて発表する	
7	課題2 小学校外国語のための4技能 (Reading and Writing)	それぞれの受講生がJeremy Harmerの Essential Teacher's Knowledgeから一章をまとめて発表する	
8	課題3 小学校外国語のための読み書き指導 (フォニックスの概要)	TBA (追って通知します)	
9	課題3 小学校外国語のための読み書き指導 (フォニックスのルール)	TBA (追って通知します)	
10	課題4 小学校外国語の教材の活用法	Sunshine, New Horizonの指導書を読むこと	
11	課題5 附属小学校のカリキュラムに合った授業開発 (附属小学校のカリキュラムの分析)	TBA (追って通知します)	
12	課題5 附属小学校のカリキュラムに合った授業開発 (指導案の作成)	TBA (追って通知します)	
13	授業の実践 (附属小学校)	TBA (追って通知します)	
14	リフレクション	TBA (追って通知します)	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	授業の参加	25%	
	予習	25%	
	授業実践	25%	
	最終課題	25%	
評価の基準 (具体的に)			
準備を十分に行って講義に臨み、経験および文献を論理的に活用して積極的に議論し、実践の方法を考案する力をみる。			
履修における留意点			
教科書 / 教材	白井恭弘、英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版、大修館、2023年、9784469246612		
参考文献	投野 由紀夫、英語到達動指標CEFR-Jガイドブック、大修館、2013年、9784469245783 Arthur W. Heilman、Phonics in Proper Perspective、Pearson、2006年、9780131177987 綾部保志、小学校英語への専門的アプローチ、春風社、2019年、9784861106477 Jeremy Harmer、Essential Teacher Knowledge、Pearson、2012年、9781408268049		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC04
授業科目名	国語科教育の実践と課題			担当教員名	藤井 知弘		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Japanese Language Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	1	EC04			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	藤井 知弘（フジイ トモヒロ）					
	担当教員名（英語）	FUJII Tomohiro					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育 - 1 - 4 2 4					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/420_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/420_ja.html</a> researchmap： <a href="https://researchmap.jp/read0164802">https://researchmap.jp/read0164802</a>					
	個人サイト						
相談可能時間	藤井 水曜日3コマ						
他の担当教員	船越 亮佑						
キーワード	教育実践学国語、言語認識、実践場面分析、学習者研究、国語科教育学						
学位授与方針との関係	教職大学院の専門職学位授与の方針において 研究成果の発表等また専門分野の応用的・実践的知識・技能 に寄与している	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現		
		20%	30%	20%	30%		
授業の目的	<p>国語の授業を分析することを通して、学習者研究、授業研究についての理解を深め、実践のありようについての見識を深める。</p> <p>なお、本科目は（校種・教科）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養うことを目的としている。。</p>						
到達目標	授業を構想・実施・分析することを通して質的に授業をみることができるようにする。						
授業の概要	<p>○国語科教育を原理（理論）、現状（行政的側面）、実践（教育方法）、評価の各論から理解を深める。</p> <p>単なる知識・理解になるだけではなく、それぞれの問題関心を餅、AL方式において理解を深めていくようにする。</p> <p>小、中いづれかにおいて、単元構想を受講者が作成する。授業創りに当たっては、言語認識の変容という観点から教材選択、授業案、実施、分析、評価という一連の過程をとる。</p>						
実務経験の有無と授業内容への反映	単に理論を扱うだけではなく、実践の具体と結びつけ、その往還を図ることとする						
授業の形式	講義と併せて演習形式 カンファレンスを実施する。（（受講人数による。）						
授業時間外の学習/予習・復習	次回についての課題（文献読解や文献検索、CiNiiによる論文収集など）が課される						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	ガイダンス 国語科教育実践場面とは			予) 特になし			
2	高校国語の再編			予) 次回内容事前配布プリントの読解		担当 船越 2からから7回目まで	
3	コンピテンシー			予) 次回内容事前配布プリントの読解			
4	授業設計の方法論			予) 次回内容事前配布プリントの読解復			
5	言語教育と論理教育			予) 次回内容事前配布プリントの読解			
6	文学教育と古典教育			予) 次回内容事前配布プリントの読解			
7	伝統的な言語文化			予) 次回内容事前配布プリントの読解			
8	国語教育の現状と課題 その展望 フィンランド、シンガポールなどの海外との比較			予) 次回内容事前配布プリントの読解		担当 藤井 8回目から13回目まで	
9	国語教育における学習理論			予) 次回内容事前配布プリントの読解			

9	国語教育と関連諸科学					
10	単元の学習と単元学習 大村はま国語教室	課題 大村はま単元の実践例の抽出				
11	学習者研究と学習材研究のありかた	課題 教科書教材の教材研究				
12	言語生活と読書生活の探究	課題 文化庁答申 これから求められる 国語力 要約				
13	今日的教育課題と授業方法論	復) 他の国語授業方法論についての調べ 学習				
14	総括 今後の国語科授業の創造の方向性(カンファレ ンス)	復) 本授業を振り返ってのまとめ				
15						
16						
17						
18						
成績評価の 方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	20%	〇〇			〇
	毎回のポートフォリオ	30%	〇			〇
	課題(最終レポート)	50%	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
評価の基準(具体的に)						
<p>毎回の授業参加についてを原則重視する。  毎回の内容について課題が提示される事がある。  ○毎回の授業についてポートフォリオとして記述し、提出する</p>						
履修における留意点	<p>現職小学校教諭、並びに小学校志望学生にあつては、教科国語が教育課程上最も時間数の多く科目であることを自覚すること  現職中学校・高等学校教諭、並びに中・高等学校志望者にあつては、専門性を支える理論の基礎理解を重要視すること</p>					
教科書/教材	全国大学国語教育学会、小学校国語科教育研究、東洋館出版、2019年、9784491037660					
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC06
授業科目名	算数・数学科教育の実践と課題			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Arithmetic and Mathematics Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	2	EC06			
主な対象学生	教育学研究科 授業力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html</a> researchmap： <a href="https://researchmap.jp/tatimasa825">https://researchmap.jp/tatimasa825</a>					
	個人サイト						
	相談可能時間	随時					
他の担当教員	佐藤 寿仁、中村 好則						
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」「専門性に基づいた問題解決能力」の達成に寄与している。」			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	算数・数学科の授業において、教科の扱う基礎的・基本的な知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成を促す単元をデザインできる教科指導力を育成することができるようにする。なお、本科目は専修免許（小学校、中学校・数学、高等学校・数学）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	算数・数学科の授業において、教科の扱う基礎的・基本的な知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成を促す単元をデザインできる教科指導力を身につける。						
授業の概要	算数・数学科の授業をデザインする上で、構想の基本となる教材分析を的確に行い、教材の特徴を生かすことを重視する。授業計画立案後は、実践授業あるいは模擬授業にかけて、その記録を協同して分析・検討し、各自の指導力を高めるようにする。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及び演習						
授業時間外の学習/予習・復習	なし						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション			算数，数学の課題の整理			
2	小学校算数について1			小学校算数の課題を整理する			
3	小学校算数について2			小学校算数の課題を整理する			
4	小学校算数について3			小学校算数の課題を整理する			
5	小学校算数について4			小学校算数の課題を整理する			
6	中学校数学について1			中学校数学の課題を整理する			
7	中学校数学について2			中学校数学の課題を整理する			
8	中学校数学について3			中学校数学の課題を整理する			
9	中学校数学について4			中学校数学の課題を整理する			
10	高校数学について1			高校数学の課題を整理する			
11	高校数学について2			高校数学の課題を整理する			



12	高校数学について3	高校数学の課題を整理する					
13	高校数学について4	高校数学の課題を整理する					
14	高校数学について5	高校数学の課題を整理する					
15							
16							
17							
18							
成績評価の方法と基準	評価方法		割合	評価観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点		70%				
	iカード		0%				
	小テスト		0%				
課題		30%					
期末テスト		0%					
評価の基準（具体的に）							
模擬授業の計画及び実施の内容 7割，その改善案についてのレポート 3割							
履修における留意点							
教科書 / 教材							
参考文献							
コースリザーブ図書							

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC07
授業科目名	理科教育の実践と課題			担当教員名	佐合 智弘		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Science Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	3	EC07			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 授業力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐合 智弘（サコウチヒロ）					
	担当教員名（英語）	SAGO Tomohiro					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部1号館-115					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	いつでも						
他の担当教員	久坂 哲也、菊地 洋一						
キーワード	理科教育、物質科学、教材、ICT、カリキュラム						
学位授与方針との関係	実践研究からの寄与	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現		
		30%	30%	10%	30%		
授業の目的	理科教育の基礎理論を踏まえた教材開発能力の養成を目的とする。なお、本科目は専修免許（小学校、中学校・理科、高等学校・理科）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	理科教育の理論的な基礎・基本をベースにした教材を作成できる能力を養うことを目標とする。そのテーマ決定の手立てとして、物質科学や物理科学に関する基礎的・科学的な内容の理解を図る。それらを基盤として教材づくりの手法について学び、それらを応用して教材の開発を行うことで、現場での実践に繋げる。						
授業の概要	日本における理科教育学の発展に関する歴史的な経緯。教育基本法、学校教育法、学習指導要領など、理科教育学の目標論を展開する。実践編として、実際の教材を題材にして理科における教材作成上の環境整備などを含め、理科教員として教材開発ができるように実践なども行う。特に、ICTやデジタルコンテンツに関しても導入する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義，輪講，実習						
授業時間外の学習/予習・復習	教育現場での実践を含む。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	理科教育の実践，ガイダンス			日本の理科教育の課題と現状			
2	日本の理科教育の課題と現状			アジア圏の理科教育の現状と日本との比較			
3	アジア圏の理科教育の現状と日本との比較			アメリカ・ヨーロッパにおける理科教育の課題と現状			
4	アメリカ・ヨーロッパにおける理科教育の課題と現状			物質科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			
5	物質科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			物質科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			
6	物質科学 系統的物質学習のための授業研究			物質科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			
7	物質科学 科学的思考力育成のための授業研究（物質学習分野）			地球科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			
8	地球科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			地球科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて			

9	地球科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて	地球科学 系統的物質学習のためのカリキュラムについて				
10	地球科学 科学的思考力育成のための授業研究（地球・宇宙学習分野）	理科教材開発の視点，ITCの活用				
11	理科教材開発の視点，ITCの活用	理科教材開発の理論と展開				
12	理科教材開発の理論と展開	学習指導案の作成と年間指導計画立案				
13	学習指導案の作成と年間指導計画立案	教育実践へ向けての企画と準備				
14	教育実践へ向けての企画と準備	レポート指示				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	40%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	60%				
期末テスト	0%					
評価の基準（具体的に）						
日常の出席点，定期試験，課題レポートのできを総合して評価する．						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC09
授業科目名	音楽科教育の実践と課題			担当教員名	白石 文子		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Music Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	4	EC09			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	白石 文子（シライ フミコ）					
	担当教員名（英語）	Fumiko SHIRAISHI					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	芸術棟-406					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/452_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/read0053912					
	個人サイト						
相談可能時間	昼休み、またはメール（fumikos@）で予約する。						
他の担当教員							
キーワード	音楽、音楽科教育						
学位授与方針との関係	教育学研究科の「学位授与の方針」のうち、以下の項目の達成に寄与している。 1 専門分野の基礎的な知識 2 専門分野の応用的・実践的な知識・技能 3 高度な実践的指導力の基盤となる能力 4 専門性に基づいた問題解決力 5 研究成果の発表等 6 社会への貢献			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	音楽科教育における基礎的な知識や技能を活用し、具体的な課題について現状分析し、課題解決のための授業実践ができる教科指導力を育成することを授業の目的とする。なお、本科目は専修免許（小学校、中学校・音楽、高等学校・音楽）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	音楽科教育の方法論を取り上げ、理論と実践の両面から検討し、現代的な課題も含めて教材研究と模擬授業等の授業実践研究を行うことを到達目標とする。						
授業の概要	文献購読を通して、人間と音楽の関係、基本的な音楽教育法の理念と教授法、実践研究の内容と方法について理解すると共に、各自の実践的課題に照らして議論する。 音楽教育における現代的な課題も含めて教材研究を行った上で、授業実践研究（音楽科授業の計画・立案・模擬授業・カンファレンス）を実施し、最後にまとめとして、全体を総括する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義、演習						
授業時間外の学習/予習・復習	文献購読、議論準備、模擬授業準備						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	オリエンテーション			資料の復習・課題の予習			
2	人間と音楽の関係			資料の復習・課題の予習			
3	基本的な音楽教育論 1：20世紀前半の著名な音楽教育法			資料の復習・課題の予習			
4	基本的な音楽教育論 2：20世紀後半の著名な音楽教育法			資料の復習・課題の予習			
5	実践研究論文の分析 1：歌唱分野			資料の復習・課題の予習			
6	実践研究論文の分析 2：器楽分野			資料の復習・課題の予習			
7	実践研究論文の分析 3：創作分野			資料の復習・課題の予習			
8	実践研究論文の分析 4：鑑賞分野			資料の復習・課題の予習			

9	授業研究のテーマ設定と計画	資料の復習・課題の予習				
10	模擬授業1：歌唱分野	資料の復習・課題の予習				
11	模擬授業2：器楽分野	資料の復習・課題の予習				
12	模擬授業3：創作分野	資料の復習・課題の予習				
13	模擬授業4：鑑賞分野	資料の復習・課題の予習				
14	まとめ	資料の復習				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	40%				
	議論	10%				
	課題	15%				
	発表	15%				
	期末テスト(最終レポート)	20%				
評価の基準(具体的に)						
<p>平常点：出席状況により、3回以上欠席すると成績は「良」以下、5回以上欠席すると原則として「不可」となる。</p> <p>議論：発言回数と内容を考慮し、成績に加算する。</p> <p>課題・発表：レジュメの内容やプレゼンテーションの質から、総合的に評価する。</p> <p>期末テスト(最終レポート)：研究テーマの設定の妥当性、資料・文献の収集とその活用、授業中の議論を踏まえた展開等を含めた内容と質から、総合的に評価する。</p>						
履修における留意点						
教科書/教材	文部科学省、小学校学習指導要領 文部科学省、中学校学習指導要領					
参考文献	E.ラドシー、J.ボイル、音楽行動の心理学、音楽之友社 L.チヨクシー他、音楽教育メソッドの比較、全音楽譜出版社					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EC14
授業科目名	道徳教育の実践と課題			担当教員名	室井 麗子		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Moral Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	3	EC14			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特になし。						
担当教員情報	氏名（カナ）	室井 麗子（ムロイ）					
	担当教員名（英語）	Reiko MUROI					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-515					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/670_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/muroi3					
	個人サイト						
相談可能時間	授業時に申し出て下さい。						
他の担当教員							
キーワード	地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	教職大学院の学位授与の方針に以下ならびに右のように寄与している。 ・各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・専攻する学問分野の探求的な活動を通して、課題分析力、論理的思考及びものごとを創造的に推進する力を養っている。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	10%	30%
授業の目的	道徳科の授業実践に関わる基礎的・基本的な知識・理論・技術を主体的に活用し、児童生徒の道徳的実践力の育成を促す授業を計画立案し実践できる実践力や指導力を身に付ける。 なお、本科目は（専修免許（小学校、中学校））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	道徳科の授業実践に関わる基礎的・基本的な知識・理論・技術を主体的に活用し、児童生徒の道徳的実践力の育成を促す授業を計画立案し実践できる実践力や指導力を身に付けている。						
授業の概要	道徳教育や道徳科の授業実践に関わる知識・理論・技術を押さえた上で、道徳の授業を計画立案し、実践授業や模擬授業を行う。さらにそれらを協同で考察・分析する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	基本的にゼミナール形式。						
授業時間外の学習/予習・復習	適宜指示する。課された課題に各自で取り組み、読んでおくように指示された関連文献は、各自で必ず精読しておくこと						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス、道徳および道徳教育の本質、小・中学校の教育課程における道徳教育の位置づけ			（予習）予めシラバスを読んでおくこと。 （復習）授業内容について各自で再度確認をしておくこと。			
2	道徳性の発達理論			（予習）前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 （復習）授業内容について各自で再度確認をしておくこと。			
3	道徳教育の方法			（予習）前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。			

3		(復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
4	道徳科の授業理論	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
5	道徳教育における評価：理論と方法論および演習(1)	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
6	道徳教育における評価：理論と方法論および演習(2)	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
7	小・中学校における道徳教育(1)：道徳教育の全体計画、道徳科の授業の年間指導計画	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
8	小・中学校における道徳教育(2)：教材研究・発問構成の理論と方法	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
9	小・中学校における道徳教育(3)：道徳科の模擬授業の計画立案・指導案の作成	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
10	小・中学校における道徳教育(4)：道徳科の模擬授業の計画立案・指導案の作成	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
11	小・中学校における道徳教育(5)：模擬授業とカンファレンス	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
12	小・中学校における道徳教育(6)：模擬授業とカンファレンス	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
13	小・中学校における道徳教育(7)：模擬授業とカンファレンス	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
14	岩手の復興教育および防災教育における道徳教育的課題、小・中学校の教育課程における道徳教育の位置づけについての総括	(予習) 前回の授業内容について再度確認をしておくこと。授業で取り上げる主題について各自の方法で調べておくこと。 (復習) 授業内容について各自で再度確認をしておくこと。	
15			
16			

17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%	○		○	○
	i カード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	70%	○	○	○	○
期末テスト	0%					
評価の基準（具体的に）						
議論への積極的な参加や発言、課題への取り組み等から総合的に評価する。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献	文部科学省、『小学校 学習指導要領』、文部科学省、2017年 文部科学省、『小学校 学習指導要領解説 特別の教科 道徳』、文部科学省、2017年 文部科学省、『中学校 学習指導要領』、文部科学省、2017年 文部科学省、『中学校 学習指導要領解説 特別の教科 道徳』、文部科学省、2017年					
コースリザーブ図書						



年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	ED01
授業科目名	子ども支援のための学校臨床心理学			担当教員名	藤井 義久		
授業科目名：英語	School Clinical Psychology to Support Children						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	3	ED01			
【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特になし。						
担当教員情報	氏名（カナ）	藤井 義久（フジイヨシヒサ）					
	担当教員名（英語）	Yoshihisa Fujii					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育 - 1 - 5 2 3					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/737_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/737_ja.html</a> researchmap： <a href="https://researchmap.jp/sas">https://researchmap.jp/sas</a>					
	個人サイト						
	相談可能時間	水曜日 2 コマ					
他の担当教員							
キーワード	臨床心理学、子ども支援、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、心の健康教育						
学位授与方針との関係	本科目は教育学研究科の学位授与の方針の「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「専門性に基じた問題解決能力」に寄与するものである。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現		
		30%	30%	20%	20%		
授業の目的	子ども支援を行っていく上で必要な学校臨床心理学の知識とスキルを身につける。 なお、本科目は（校種・教科）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」を養う。						
到達目標	子どもが抱えている様々な問題についての確にアセスメントでき、その結果に基づき、学校臨床心理学的立場から適切に子ども支援を行っていくことができる能力向上を目指す。						
授業の概要	精神疾患分類基準であるDSMを用いた子ども理解、心理アセスメントの理論と実際、子どもの心と行動の問題、多様な臨床心理学的アプローチ、さらに児童生徒が抱える問題と理解についてコンサルテーションの観点から、さらには、心の健康教育も含めて、講義、演習、実習を通して学ぶ。						
実務経験の有無と授業内容への反映	公認心理師、学校心理士スーパーバイザー						
授業の形式	講義の他、演習、実習、グループワークも多く取り入れる。						
授業時間外の学習/予習・復習	子どもの精神疾患や問題行動について調べたことについて発表する機会を設ける予定であるので、その発表に向けた準備として文献研究や事例研究を課す。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	臨床心理学とは アセスメントとは 心理アセスメント（1） ・DSM-5に基づく精神疾患分類について			子どもが抱えている問題に対して、臨床心理学的視点から理解するための枠組として、DSMに基づく精神疾患の分類について学ぶ。			
2	心理アセスメント（2） ・子どものパーソナリティに関するアセスメントの実際			質問紙法実習（MMPI）			
3	心理アセスメント（3） ・子どものパーソナリティに関するアセスメントの実際			質問紙法実習（YG）、作業検査法実習（内田クレペリン）、投影法実習（描画法）			
4	心理アセスメント（4） ・子どもの知能に関するアセスメントの実際			個別知能検査実習（WISC）			
5	心理アセスメント（5） ・子どもの知能に関するアセスメントの実際			個別知能検査実習（WISC）			

6	カウンセリング(1) ・来談者中心療法	来談者中心療法について学ぶ。	
7	カウンセリング(2) ・認知行動療法	認知行動療法について学ぶ。	
8	カウンセリング(3) ・芸術療法(コラージュ療法、箱庭療法)	「コラージュ療法」と「箱庭療法」を中心に、芸術療法の実際について学ぶ。	
9	コンサルテーション(1) 非社会的問題行動の理解と対応 (うつ・不安、不登校、神経性習癖など)	非社会的問題行動の理解と対応について、チーム支援の観点から学ぶ。	
10	コンサルテーション(2) 反社会的問題行動の理解と対応 (怒り・攻撃性、いじめ、暴力行為など)	反社会的問題行動の理解と対応について、チーム支援の観点から学ぶ。	
11	心の健康教育(1) ・心の健康教育の実際 (アンガーマネジメント、ストレスマネジメント、SST) ・「心の健康教育」指導案の作成方法	様々な「心の健康教育」の授業タイプについて学ぶ。	
12	心の健康教育(2) 模擬授業と「心の健康教育」授業分析	「心の健康教育」指導案の作成、実施、振り返りを通して、「心の健康教育」に関する理論と実際について学ぶ。	
13	心の健康教育(3) 模擬授業と「心の健康教育」授業分析	「心の健康教育」指導案の作成、実施、振り返りを通して、「心の健康教育」に関する理論と実際について学ぶ。	
14	心の健康教育(4) 模擬授業と「心の健康教育」授業分析	「心の健康教育」指導案の作成、実施、振り返りを通して、「心の健康教育」に関する理論と実際について学ぶ。	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点 関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点	50%	
	iカード	0%	
	小テスト	0%	
	課題	50%	
	期末テスト	0%	
評価の基準(具体的に)			
平常点(毎回の小レポート、演習参加態度等)と最終報告書を総合して評価する。なお、演習、実習を重視するため、4回以上の欠席は自動的に不可とする。			
履修における留意点	講義だけでなく、演習、実習も積極的に参加すること。		
教科書/教材			
参考文献			
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	ED06
授業科目名	学習支援のための教育心理学			担当教員名	山路 茜		
授業科目名：英語	Educational Psychology for Learning Support						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	1	ED06			
				【凡例】			
				：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）			
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	山路 茜（ヤマジ アカネ）					
	担当教員名（英語）	Yamaji Akane					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部 1号館-524					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	水曜 3限，あるいはWebClassのメッセージから面談予約をとってもらいと都合のよい時間を設定します。						
他の担当教員							
キーワード	学習支援 Learning Support、教育心理学 Educational Psychology、教授学習 Teaching and Learning、学習観 Beliefs about Learning						
学位授与方針との関係	<p>本授業の目標は次の諸点と関わる。</p> <p>知識理解： 小学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。</p> <p>思考・判断： 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。</p> <p>技能・表現： 小学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。 ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で表現できる。また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。</p> <p>関心・意欲・態度： 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。</p>			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	10%	40%	20%
授業の目的	<p>学校生活において子どもが直面する学習に関する問題状況に向き合い解決を目指すためには、学習のしくみや原理を理解しておくことが大切である。「わからない」や「やる気が出ない」などの学習に関わる問題に対する支援のあり方について、学習のしくみや原理の理解に基づき、指導のあり方や環境の整え方を考える。</p> <p>なお、本科目は専修免許（幼稚園，小学校，中学校，高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」を養う。</p>						
到達目標	子どもが学校生活において直面しうる問題状況に対してよりよい支援を考えるにあたり、学習のしくみや原理を理解し、その基礎的な知識に基づいた指導のあり方や環境の整え方について、他者と子どもの事実を照らした意見交流をすることを通して考察できるようになる。						
授業の概要	学習に対する見方、記憶の形成と知識の獲得、動機づけ、協働学習など、各種のテーマに沿って解説し、基本文献を参照しつつ、子どもの事実を照らした支援のあり方について他者と意見を交わすことを通して考える。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義部分と演習部分で構成する。						
授業時間外の学習/予習・復習	関連書籍や文献を参照して復習をする。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	学習観			予習：自分にとって学習とは何かというイメージについて考えておく			

1		復習：学習観と学習方法との関係について考察する				
2	学習の評価	予習：これまで学んだ学習の評価に関する内容を見直しておく 復習：多角的な評価のあり方について考察する				
3	学習の3つの見方	予習：これまでに学んだ学習論に関する内容について見直しておく 復習：連合論的な見方，認知論的な見方に基づいた支援のあり方について考察する				
4	学習の3つの見方	予習：前回の学習論に関する内容でわからなかったことを整理しておく 復習：活動論的な見方に基づいた支援のあり方について考察する				
5	中間討論	予習：これまでの講義内容を見直しておく 復習：中間レポートを作成する				
6	記憶の形成	予習：これまでに学んだ記憶の内容について見直しておく 復習：記憶のしくみに基づいた支援のあり方について考察する				
7	知識獲得と理解	予習：これまでに学んだ知識に関する内容について見直しておく 復習：知識と理解の関係に基づいた支援のあり方について考察する				
8	問題解決とメタ認知	予習：これまでに学んだメタ認知に関する内容について見直しておく 復習：学習方略に基づいた支援のあり方について考察する				
9	動機づけ	予習：これまでに学んだ動機づけに関する内容について見直しておく 復習：原因帰属に基づいた支援のあり方について考察する				
10	自己調整学習	予習：前回の動機づけに関する内容でわからなかったことを整理しておく 復習：自己決定理論に基づいた支援のあり方について考察する				
11	自己調整学習	予習：前回の自己調整に関する内容でわからなかったことを整理しておく 復習：学習に関する援助要請に基づいた支援のあり方について考察する				
12	学級集団とその組織化	予習：これまでに学んだ教室のコミュニケーションに関する内容について見直しておく 復習：参加構造に基づいた支援のあり方について考察する				
13	協働学習	予習：これまでに学んだ協働学習に関する内容について見直しておく 復習：協働学習における留意点や支援のあり方について考察する				
14	最終討論	予習：これまでの講義内容を見直しておく 復習：最終レポートを作成する				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	40%	○	○		
	課題・レポート	60%		○	○	○
評価の基準（具体的に）						
平常点，中間レポート，最終レポートを総合して判断する。 平常点として，毎回学んだ内容を自分の言葉でまとめることを求める。 中間と最終のレポートは，講義で扱った内容から各自関心をもったことについて考察することを求める。						

履修における留意点	
教科書 / 教材	
参考文献	秋田喜代美、坂本篤史、学校教育と学習の心理学、岩波書店、2015年 市川伸一、学力と学習支援の心理学、放送大学、2014年
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EE01
授業科目名	特別支援学校の実践力			担当教員名	佐藤 信		
授業科目名：英語	Practical Skills for Special Needs Education Schools 1						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	2	EE01			
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐藤 信（サトシ）					
	担当教員名（英語）	SATO Shin					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部1号館（A21）-510					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	基本的に昼休みに対応します。事前にメールで連絡をしてください。						
他の担当教員	佐々木 全						
キーワード	特別支援教育、特別支援学校、肢体不自由、インクルーシブ教育						
学位授与方針との関係	この科目は、学位授与方針の（知識・理解）「4．特別支援教育の専門的な知識を身につけている。」と（関心・意欲）「11．特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち、最新の動向の把握に努め、特別支援教育に貢献しようとする意欲を持っている。」（態度）「12．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。」の達成に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	特別支援学校（肢体不自由）の児童生徒の実態、近年の学校の現状、取り巻く環境の変化等を理解し、実践力を高めるとともに、これからの課題について理解を深める。 なお、本科目は特別支援教育教員免許取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得」するための科目にあたり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	特別支援学校（肢体不自由）の現状と課題について理解し、自己の考えに基づいた、教員としての今後の取り組みについて具体的に説明、記述することができる。						
授業の概要	肢体不自由教育支援学校における教育課程編成や授業づくりに関わる基本的な事項の学修と、それを基にした学校及び施設参観をとおして肢体不自由教育を進めるための実践的な知識と課題解決の方向性について探求する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	肢体不自由教育の基礎的な事項についてのまとめと説明及び学校及び施設参観をとおして得られた気づきを基にディスカッションを行い理解を深める。						
授業時間外の学習/予習・復習	乳幼児の身体発達について事前に学習をしておきましょう。 学校及び施設参観からの気づきを基に、自分なりに考察してみましょう。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	肢体不自由教育支援学校の教育と対象			肢体不自由学支援学校の教育と対象について事前に確認する			
2	肢体不自由と他の障害を合わせ有する児童生徒の教育(重複障害)			学習指導要領解説の「自立活動」を読んで、質問等を考えておく。			
3	肢体不自由と他の障害を合わせ有する児童生徒の教育（医療的ケア児）			医療的ケア児及び支援の状況等について事前に確認しておく			
4	肢体不自由教育支援学校における進路指導・支援			肢体不自由特別支援学校における進路指導・支援の状況について事前に確認しておく			
5	肢体不自由教育支援学校における保護者との連携			肢体不自由特別支援学校における保護者との連携について確認しておく			
6	肢体不自由教育支援学校における地域との連携（学校所在地・居住地域との連携）			岩手県の居住地校交流について事前に調べ確認しておく			

7	肢体不自由教育支援学校における代替コミュニケーション手段等の活用	代替コミュニケーション手段及について事前に調べ確認しておく	
8	肢体不自由教育支援学校における代替コミュニケーション手段等の活用・課題演習	前時の内容を基に、活用手段と場面について想定し、説明できるようにしておく	
9	肢体不自由教育支援学校における学校経営・課題演習（参観）	参観に関わる質問等を考えておく	
10	肢体不自由教育支援学校における学校経営・課題演習（振り返り）	参観した際の気付きについて付箋等を書き出しておく	
11	肢体不自由教育支援学校における学校経営・課題演習（振り返り）	前時の内容を基に自分なりに気付きをカテゴリライズし、考えをまとめておく	
12	肢体不自由教育支援学校における施設・福祉サービスとの連携（施設との連携）・課題演習（参観）	参観に関わる質問等を考えておく	
13	肢体不自由教育支援学校における施設・福祉サービスとの連携（療育・日常生活支援）・課題演習（振り返り）	参観した際の気付きについて付箋等を書き出しておく	
14	肢体不自由教育支援学校における施設・福祉サービスとの連携（療育・日常生活支援）・課題演習（振り返り）、まとめ	前時の内容を基に自分なりに考えをまとめておく、これまでの学修について自分なりにまとめておく	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	平常点	60%	関心・意欲   知識・理解   技能・表現   思考・判断
	課題・レポート	40%	○
評価の基準（具体的に）			
<p>普通の授業での発言（特別支援教育への関心・意欲、思考・判断、自己の考えをまとめる力）を通して、評価する。          課題作成では、授業で論説した内容の理解を評価する。加えて本科目の目標にかかる内容についての自身の見解を論理的、簡潔に説明できることを評価する。</p>			
履修における留意点			
教科書 / 教材			
参考文献			
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EE02
授業科目名	特別支援学校の実践力			担当教員名	佐藤 信		
授業科目名：英語	Practical Skills for Special Needs Education Schools 2						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	3	EE02			
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐藤 信（サトシ）					
	担当教員名（英語）	SATO Shin					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部1号館（A21）-510					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	基本的に昼休みに対応します。事前にメールで連絡してください。						
他の担当教員	佐々木 全						
キーワード	特別支援教育、特別支援学校、病弱・身体虚弱教育、インクルーシブ教育						
学位授与方針との関係	この科目は、学位授与方針の（知識・理解）「4．特別支援教育の専門的な知識を身につけている。」と（関心・意欲）「11．特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち、最新の動向の把握に努め、特別支援教育に貢献しようとする意欲を持っている。」（態度）「12．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。」の達成に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	特別支援学校（病弱）の児童生徒の実態、近年の学校の現状、取り巻く環境の変化等を理解し、実践力を高めると共に、これからの課題について理解を深める。 なお、本科目は特別支援教育教員免許取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得」するための科目にあたり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	特別支援学校（病弱）の現状と課題について理解し、自己の考えに基づいた、教員としての今後の取り組みについて具体的に説明、記述することができる。						
授業の概要	病弱教育支援学校における教育課程編成や授業づくりに関わる基本的な事項の学修と、それを基にした学校参観をとおし、病弱教育を進めるための実践的な知識と課題解決の方向性について探求する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義						
授業時間外の学習/予習・復習	数時間現場での授業参観有り。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	病弱教育支援学校の教育と対象			病弱教育支援学校の教育と対象について事前に調べておく			
2	病弱教育支援学校における児童生徒の理解			病弱教育支援学校の対象となる病気・障害等について事前に調べておく			
3	病弱教育支援学校における児童生徒の理解			病弱教育支援学校における重複障害児童生徒について事前に学習する			
4	病弱教育支援学校における教育課程の編成			病弱教育支援学校における教育課程及び自立活動について事前に調べておく			
5	病弱教育支援学校における学校経営・課題演習（参観）			学校参観に関わる質問等を事前に考えておく			
6	病弱教育支援学校における学校経営・課題演習（振り返り）			参観後、気付いたことをメモにまとめておく			
7	病弱教育支援学校における授業づくり・課題演			前回の学校参観を参考にして、学校参観			



7	習（参観）	や授業づくりに関わる質問を事前に考えておく				
8	病弱教育支援学校における学校経営・課題演習（振り返り）	参観後、気付いたことをメモにまとめておく				
9	病弱教育支援学校における学校経営・課題演習（振り返り）	カテゴライズした気付きを参考に自分なりの考えをまとめておく				
10	病弱教育支援学校における医療・地域との連携（入院児童生徒への支援と課題）	入院児童生徒に関わる実態や課題等について事前に調べておく				
11	病弱教育支援学校における医療・地域との連携（入院児童生徒への支援と課題）	前時の内容を参考に課題を整理するとともに、制度や各県の取組等について調べておく				
12	病弱教育支援学校におけるICT等の活用	病弱教育支援学校の児童生徒がICTを活用するための機器や場面等について事前に調べておく				
13	病弱教育支援学校における保護者・福祉制度との連携と進路支援	病弱教育支援学校における福祉制度や進路支援に関わる課題と制度について事前に調べておく				
14	授業のまとめ	病弱教育支援学校における実践力について自分の考えをまとめておく				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	授業での発言	60%			○	
	課題作成	40%			○	
評価の基準（具体的に）						
<p>普通の授業での発言（特別支援教育への関心・意欲、思考・判断、自己の考えをまとめる力）を通して、評価する。課題作成では、授業で論説した内容の理解を評価する。加えて本科目の目標にかかる内容についての自身の見解を論理的、簡潔に説明できることを評価する。</p>						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EE04
授業科目名	特別支援教育授業論			担当教員名	柴垣 登		
授業科目名：英語	Classroom TheoryLesson Theory in Special Needs Education 2						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	1	EE04			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	柴垣 登（シバガキノボル）					
	担当教員名（英語）	NOBORU Shibagaki					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	512					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	在室時は、いつでも相談可能です。 ただし、不在のことも多いので、事前にメール(nshiba@iwate-u.ac.jp)で相談の予約を取ってもらった方が確実です。						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	肢体不自由、教育課程、授業、地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	<p>肢体不自由教育における教育課程編成や授業づくりの基盤となる知識・技能を習得し、その活用のために必要な思考力・判断力を育成する。また、肢体不自由教育の現状と課題を認識し、課題解決のために求められる意欲や思考力・判断力を向上させることを目的とする。</p> <p>また、岩手県における肢体不自由教育の歴史や現状と課題について理解し、率先して具体的な問題解決に貢献するという意識や認識を育てることを目的としている。</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。</p>						
到達目標	<p>主に肢体不自由教育の実践者として求められる下記の資質能力を身に付けるとともに、他者に正確に説明できるようになることを目標とする。</p> <p>肢体不自由教育課程の特質及びその理解 授業における指導計画（全体、個別）の作成 肢体不自由教育における自立活動の考え方と実践 肢体不自由教育における教科指導の考え方と実践 教材研究の方法 授業評価の観点と方法 日本及び岩手県における肢体不自由教育の歴史や現状の理解とその改善策や解決策</p>						
授業の概要	<p>主に肢体不自由教育での授業力の向上及び肢体不自由教育現場に対する指導力の向上を目的として、以下8点を中心に講義並びに討論と実際の授業観察及び研究を行う。</p> <p>肢体不自由教育課程の特質及びその理解 授業における指導計画（全体、個別）の作成 肢体不自由教育における自立活動の考え方と実践 肢体不自由教育における教科指導の考え方と実践 教材研究の方法 授業評価の在り方 肢体不自由特別支援学校及び特別支援学級での授業観察と授業研究 日本及び岩手県における肢体不自由教育の歴史や現状の理解とその改善策や解決策</p>						
実務経験の有無と授業内容への反映	肢体不自由教育における教育課程編成や指導計画の作成、授業づくりについての理解の促進と実践力の向上のため、実際の授業を事例として取り上げる。合わせて、授業研究を通して受講者の授業批評力の向上に努める。						
授業の形式	講義及び事例観察に基づくPBL形式						
授業時間外の学習/予習・復習	参考文献を精読すること。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考

1	イントロダクション / 肢体不自由とは	社会の中で流布している肢体不自由のイメージについて事前にまとめるとともに、講義の内容を復習し教育の対象としての肢体不自由について理解を深めること。	
2	わが国における戦前から養護学校義務制実施までの肢体不自由教育の歴史について	明治期以降養護学校義務制までの肢体不自由教育の歴史について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し肢体不自由者が学校教育の中でどのように扱われたのかやその背景にある社会の中での肢体不自由者の位置づけ等について理解を深めること。	
3	肢体不自由教育の対象となる障害についての医学的側面からの理解について	肢体不自由教育の主たる対象となる脳性まひについてその原因や特性等について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し肢体不自由教育の対象となる児童生徒の障害の種類や原因、特性等についての理解を深めること。	
4	肢体不自由教育における心理学的側面及び教育面からの理解について	肢体不自由者の心理的特性や障害特性から生じる学習上、生活上の困難について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し教育課程編成や授業づくりにおける留意点等についての理解を深めること。	
5	肢体不自由教育における教育課程（個別の教育支援計画・個別の指導計画を含む）について	肢体不自由教育における教育課程編成上必要な留意点等について学習指導要領や同解説をもとに事前に自身の考えをまとめておくとともに、講義の内容を復習し肢体不自由教育における教育課程の特長や編成上の留意点等について理解を深めること。	
6	肢体不自由教育における各教科等の指導について	肢体不自由児の学習上及び生活上の困難や制約に応じた各教科等の指導における配慮や支援の内容・方法等について学習指導要領解説や参考書をもとに事前にまとめておくとともに、講義内容を復習し各教科等の指導を行う上での配慮や支援の内容・方法等について理解を深めること。	
7	肢体不自由教育における自立活動の指導について	肢体不自由児に対する自立活動において重要な「健康の保持」や「身体の動き」、「コミュニケーション」等を中心に学習指導要領や同解説（自立活動編）に示された内容について事前に理解しておくとともに、講義内容を復習し肢体不自由教育における自立活動の重要性や指導計画の作成の手順、実際の指導内容・方法等について理解を深めること。	
8	肢体不自由教育における支援機器の活用について	AAC機器やICT機器を中心にどのような支援機器が活用されているか事前に調べるとともに、講義内容を復習し支援機器の活用の意義や留意点等についての理解を深めること。	
9	肢体不自由教育におけるキャリア教育について	事前に肢体不自由特別支援学校高等部卒業生の進路状況とその特徴について調べるとともに、講義内容を復習し肢体不自由教育におけるキャリア教育の意義や実際の指導内容・方法等について理解を深めること。	
10	肢体不自由特別支援学校の授業観察（実地）	肢体不自由特別支援学校の実際の授業を観察するにあたって事前にこれまでの講義内容を復習し、授業観察に当たって必要な観点について自身で考えておくとともに、授業観察から気付いた点を整理しておくこと。	
11	肢体不自由特別支援学校の授業づくりにおいて必要な観点の整理	前回の授業観察をもとに授業づくりにおいて必要な観点について事前に整理しておくとともに、講義における討論の内容をもとに授業づくりにおいて必要な観点を修正・整理すること。	
12	肢体不自由特別支援学級の授業観察（実地）	肢体不自由特別支援学級の実際の授業及び通常学級との交流及び共同学習を観察	

12		<p>するにあたって、これまでの講義内容をもとに観察の観点を自身で考えておくこと。また、授業観察から気付いた点について、特別支援学校との共通点や相違点等の観点から整理しておくこと。</p>	
13	<p>肢体不自由特別支援学校及び特別支援学級での授業づくりにおいて必要な観 points の整理</p>	<p>前回の授業観察をもとに特別支援学級における授業づくりにおいて必要な観 points について事前に整理しておくとともに、講義における討論の内容をもとに特別支援学校及び特別支援学級での授業づくりにおいて必要な観 points について整理し深化させること。</p>	
14	<p>肢体不自由教育における授業評価（評価の観 points） 肢体不自由教育の今後の課題</p>	<p>これまでの講義内容や授業観察を通じて獲得した授業づくりの観 points から授業評価において必要とされる評価の観 points について事前にまとめておくこと。また、講義内容をもとに肢体不自由教育の今後の課題とその解決の方向性について理解を深めるとともに自身の考えを持つこと。</p>	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観 points
	平常点	60%	<p>関心・意欲 ○ 知識・理解 ○ 技能・表現 ○ 思考・判断 ○</p>
	期末レポート	40%	<p>関心・意欲 ○ 知識・理解 ○ 技能・表現 ○ 思考・判断 ○</p>
評価の基準（具体的に）			
<p>平常点は、普通の授業での発言（肢体不自由教育への関心・意欲、思考・判断、自己の考えをまとめる力）と討論への参加を通して、評価する。 期末レポートでは、肢体不自由教育における教育課程編成や授業づくりに関する知識・技能の習得状況を評価するとともに、肢体不自由教育の現状と課題に関する認識及びその解決に向けた自身の考え等を的確かつ簡潔に記述できているかを評価する。</p>			
履修における留意点			
教科書 / 教材			
参考文献	<p>文部科学省、特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領、海文堂出版、2018年 文部科学省、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）、開隆堂、2018年 文部科学省、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、開隆堂、2018年 文部科学省、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）、開隆堂、2018年 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会、肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ 3 解説 授業とカリキュラムマネジメント、ジアース教育新社、2016年 柴垣登、インクルーシブ教育のかたち 都道府県ごとの特別支援教育の違いから、春風社、2022年、9784861108211</p>		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EE05
授業科目名	特別支援教育授業論			担当教員名	柴垣 登		
授業科目名：英語	Classroom TheoryLesson Theory in Special Needs Education 3						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	2	EE05			
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	柴垣 登（シバキノボル）					
	担当教員名（英語）	NOBORU Shibagaki					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	512					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	在室時は、いつでも相談可能です。 ただし、不在のことも多いので、事前にメール(nshiba@iwate-u.ac.jp)で相談の予約を取ってもらった方が確実です。						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	病弱・身体虚弱、教育課程、授業、地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	病弱教育における教育課程編成や授業づくりの基盤となる知識・技能を習得し、その活用のために必要な思考力・判断力を育成する。また、病弱教育の現状と課題を認識し、課題解決のために求められる意欲や思考力・判断力を向上させることを目的とする。 また、岩手県における病弱教育の歴史や現状と課題について理解し、率先して具体的な問題解決に貢献するという意識や認識を育てることを目的としている。 なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	主に病弱教育の実践者として求められる下記の資質能力を身に付けるとともに、他者に正確に説明できるようになることを目標とする。 病弱教育課程の特質及びその理解 授業における指導計画（全体、個別）の作成 病弱教育における自立活動の考え方と実践 病弱教育における教科指導の考え方と実践 教材研究の方法 授業評価の観点と方法 日本及び岩手県における病弱教育の歴史や現状の理解とその改善策や解決策						
授業の概要	主に病弱教育での授業力の向上及び病弱教育現場に対する指導力の向上を目的として、以下8点を中心に講義並びに討論と実際の授業観察及び研究を行う。 病弱教育課程の特質及びその理解 授業における指導計画（全体、個別）の作成 病弱教育における自立活動の考え方と実践 病弱教育における教科指導の考え方と実践 教材研究の方法 授業評価の在り方 病弱特別支援学校及び病弱・身体虚弱特別支援学級での授業観察と授業研究 日本及び岩手県における病弱教育の歴史や現状の理解とその改善策や解決策						
実務経験の有無と授業内容への反映	病弱教育における教育課程編成や指導計画の作成、授業づくりについての理解の促進と実践力の向上のため、実際の授業を事例として取り上げる。合わせて、授業研究を通して受講者の授業批評力の向上に努める。						
授業の形式	講義及び事例観察に基づくPBL形式						
授業時間外の学習/予習・復習	参考文献を精読すること。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考

1	イントロダクション/「病氣」とは・「病氣である」ということ	社会の中で流布している病弱者のイメージについて事前にまとめるとともに、講義の内容を復習し教育の対象としての病弱者について理解を深めること。	
2	わが国における戦前から養護学校義務制実施までの病弱・身体虚弱教育の歴史について	明治期以降養護学校義務制までの病弱・身体虚弱教育の歴史について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し病弱・身体虚弱者が学校教育の中でどのように扱われたのかやその背景にある社会の中での病者の位置づけ等について理解を深めること。	
3	病弱教育の対象となる病氣についての医学的側面からの理解について	病弱教育の主たる対象となる慢性疾患や現在増加しつつある精神疾患等についてその原因や症状等について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し病弱教育の対象となる児童生徒の病氣の種類や原因、症例等についての理解を深めること。	
4	病弱教育における心理学的側面及び教育面からの理解について	病弱者の心理的特性や入院・療養の必要から生じる学習上、生活上の困難について事前に調べるとともに、講義の内容を復習し教育課程編成や授業づくりにおける留意点等についての理解を深めること。	
5	病弱教育における教育課程（個別的教育支援計画・個別の指導計画を含む）について	病弱教育における教育課程編成上必要な留意点等について学習指導要領や同解説をもとに事前に自身の考えをまとめておくとともに、講義の内容を復習し病弱教育における教育課程の特長や編成上の留意点等について理解を深めること。	
6	病弱教育における各教科等の指導について	病弱児の学習上及び生活上の困難や制約に応じた各教科等の指導における配慮や支援の内容・方法等について学習指導要領解説や参考書をもとに事前にまとめておくとともに、講義内容を復習し各教科等の指導を行う上での配慮や支援の内容・方法等について理解を深めること。	
7	病弱教育における自立活動の指導について	病弱児に対する自立活動において重要な「健康の保持」や「人間関係の形成」、「コミュニケーション」等を中心に学習指導要領や同解説（自立活動編）に示された内容について事前に理解しておくとともに、講義内容を復習し病弱教育における自立活動の重要性や指導計画の作成の手順、実際の指導内容・方法等について理解を深めること。	
8	病弱教育における支援機器の活用について	AAC機器やICT機器を中心にどのような支援機器が活用されているか事前に調べるとともに、講義内容を復習し支援機器の活用の意義や留意点等についての理解を深めること。	
9	病弱教育におけるキャリア教育について	事前に病弱特別支援学校高等部卒業生の進路状況とその特徴について調べるとともに、講義内容を復習し病弱教育におけるキャリア教育の意義や実際の指導内容・方法等について理解を深めること。	
10	病弱特別支援学校（本校）の授業観察（実地）	病弱特別支援学校の実際の授業を観察するにあたって事前にこれまでの講義内容を復習し、授業観察に当たって必要な観点について自身で考えておくとともに、授業観察から気付いた点を整理しておくこと。	
11	病弱特別支援学校（本校）の授業づくりにおいて必要な観点の整理	前回の授業観察をもとに授業づくりにおいて必要な観点について事前に整理しておくとともに、講義における討論の内容をもとに授業づくりにおいて必要な観点を修正・整理すること。	
12	病弱特別支援学校（分教室）の授業観察（実地）	病弱特別支援学校（分教室）の実際の授業を観察するにあたって、これまでの講義内容をもとに観察の観点を自身で考えておくこと。また、授業観察から気付	

12		いた点について、本校との共通点や相違点等の観点から整理しておくこと。	
13	病弱特別支援学校（分教室）での授業づくりにおいて必要な観点の整理	前回の授業観察をもとに特別支援学校（分教室）における授業づくりにおいて必要な観点について事前に整理しておくとともに、講義における討論の内容をもとに特別支援学校（分教室）での授業づくりにおいて必要な観点について整理し深化させること。	
14	病弱教育における授業評価（評価の観点） 病弱教育の今後の課題	これまでの講義内容や授業観察を通じて獲得した授業づくりの観点から授業評価において必要とされる評価の観点について事前にまとめておくこと。また、講義内容をもとに病弱教育の今後の課題とその解決の方向性について理解を深めるとともに自身の考えを持つこと。	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	平常点	60%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	期末レポート	40%	○ ○ ○ ○
評価の基準（具体的に）			
平常点は、普通の授業での発言（病弱教育への関心・意欲、思考・判断、自己の考えをまとめる力）と討論への参加を通して、評価する。期末レポートでは、病弱教育における教育課程編成や授業づくりに関する知識・技能の習得状況を評価するとともに、病弱教育の現状と課題に関する認識及びその解決に向けた自身の考え等を的確かつ簡潔に記述できているかを評価する。			
履修における留意点			
教科書 / 教材			
参考文献	文部科学省、特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領、海文堂出版、2018年 文部科学省、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）、開隆堂、2018年 文部科学省、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、開隆堂、2018年 文部科学省、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）、開隆堂、2018年 全国特別支援学校病弱教育校長会、病気の子どもガイドブック、ジアース教育新社、2012年 全国特別支援学校病弱教育校長会、病弱教育における各教科等の指導、ジアース教育新社、2015年 柴垣登、インクルーシブ教育のかたち 都道府県ごとの特別支援教育の違いから、春風社、2022年、9784861108211		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	前期集中	単位数	2	時間割コード	EE06
授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Career Education in Special Needs Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
				EE06			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特にありません。						
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月、水 昼休み 事前にメールにてご連絡ください。 zensky@iwate-u.ac.jp						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	特別支援教育 Special Needs Education、キャリア教育 Career Education						
学位授与方針との関係	この科目は、教育学研究科のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」の「1. 学校教育（学校経営、学習指導、子ども理解、及び特別支援教育等）の質的改善に貢献するために必要な基礎的な知識を修得している。」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」の「2. 教育実践の現代的諸課題に応えうる高度な専門的知識と実践的指導力を修得している。」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の「3. 学校経営、学習指導、子ども理解、及び特別支援教育等に関する高度な実践的指導力の基盤となる能力を修得している。」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				40%	20%	20%	20%
授業の目的	特別支援教育におけるキャリア教育の概念、国の施策等の動向、研究動向、特別支援教育とキャリア教育の関係、特別支援教育が受けとめるべきキャリア教育の課題、特別支援学校等におけるキャリア教育の実践研究及び授業の実際などを理解する。 なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	特別支援教育におけるキャリア教育に関する、キャリア教育の概念、国の施策等の動向、国立特別支援教育総合研究所や研究者らによる研究動向、特別支援教育とキャリア教育の関係、特別支援教育が受けとめるべきキャリア教育の課題、特別支援学校等におけるキャリア教育の実践研究及び授業の実際などを説明できる。						
授業の概要	近年、特別支援教育においてもキャリア教育の必要性への認識が深まり、実践現場での関心も高まっている。これら特別支援教育におけるキャリア教育に関して、キャリア教育の概念、国の施策等の動向、国立特別支援教育総合研究所や研究者らによる研究動向、特別支援教育とキャリア教育の関係、特別支援教育が受けとめるべきキャリア教育の課題、特別支援学校等におけるキャリア教育の実践研究及び授業の実際などを中心に概説する。						
実務経験の有無と授業内容への反映	養護学校（現特別支援学校）における教諭経験、特別支援学校における校長経験を踏まえ、実践的な側面から特別支援教育におけるキャリア教育のあり方を論じます。						
授業の形式	講義形式です。						
授業時間外の学習/予習・復習	なるべく知的障害教育課程の文献を講読しておいてください。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	キャリア教育の概念			予習：キャリア教育の概念を調べる。 復習：特別支援教育におけるキャリア教育の概念を確認する。			
2	特別支援教育の歴史的変遷とキャリア教育			予習：特別支援教育の歴史的変遷を調べる。 復習：特別支援教育の歴史的変遷とキャリア教育の関係を確認する。			



3	特別支援教育の今日的課題とキャリア教育	予習：特別支援教育の今日的課題を考える。 復習：特別支援教育の今日的課題とキャリア教育のポイントを確認する。	
4	キャリア教育に関する国の動向	予習：キャリア教育に関する国の動向を調べる。 復習：キャリア教育に関する国の動向のポイントを確認する。	
5	キャリア教育に関する研究動向（国立特別支援教育総合研究所の動向を中心に）	予習：キャリア教育に関する研究動向を国立特別支援教育総合研究所のサイトから調べる。 復習：キャリア教育に関する研究動向のポイントを確認する。	
6	キャリア教育に関する研究動向（国内外の研究動向）	予習：キャリア教育に関する国内外の研究動向を調べる。 復習：キャリア教育に関する国内外の研究動向のポイントを確認する。	
7	キャリア教育と特別支援教育課程	予習：特別支援教育課程の構造を調べる。 復習：キャリア教育と特別支援教育課程のポイントを確認する。	
8	キャリア教育の授業づくり	予習：キャリア教育の授業実践記録を見ておく。 復習：キャリア教育の授業づくりのポイントを確認する。	
9	キャリア教育におけるワークキャリアとライフキャリア	予習：キャリア教育におけるワークキャリアとライフキャリアの概念を調べる。 復習：キャリア教育におけるワークキャリアとライフキャリアのポイントを確認する。	
10	小学部段階でのキャリア教育	予習：小学部段階でのキャリア教育について調べる。 復習：小学部段階でのキャリア教育のポイントを確認する。	
11	中学部・高等部段階のキャリア教育	予習：中学部・高等部段階のキャリア教育について調べる。 復習：中学部・高等部段階のキャリア教育のポイントを確認する。	
12	障害が重いとされる子どもへのキャリア教育	予習：障害が重いとされる子どもへのキャリア教育の課題を考えておく。 復習：障害が重いとされる子どもへのキャリア教育のポイントを確認する。	
13	キャリア教育の評価	予習：学習評価の基本を確認しておく。 復習：キャリア教育の評価のポイントを確認する。	
14	キャリア教育の今後の課題	予習：キャリア教育の今後の課題を考えておく。 復習：キャリア教育の今後の課題のポイントを確認する。	
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	定期試験	60%				
	授業での発言	40%				

**評価の基準（具体的に）**

定期試験では、単なる知識の記憶だけでなく、授業で論説した内容の理解を評価する。加えて本科目の目標にかかる内容についての自身が有する見解を論理的に説明できることを評価します。  
授業での発言は関心・意欲や思考・判断、つまり積極的に実践的思考を重視した発言を評価します。

履修における留意点	
教科書 / 教材	名古屋恒彦、知的障害教育発、キャリア教育、東洋館出版社、2013年
参考文献	文部科学省、平成29年4月告示 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、海文堂出版、2018年
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	EE09
授業科目名	通常学級における特別支援教育			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Special Needs Education in Regular Classes						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	4	EE09			
【凡例】							
：当該科目							
：同時に履修すべき							
科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月水 昼 予めご連絡ください zensky@iwate-u.ac.jp						
他の担当教員							
キーワード	特別支援教育、通常学級、教職大学院						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				25%	25%	30%	20%
授業の目的	通常学級における発達障害等のある児童生徒への教育について、その実態と課題を把握し、一般並びに個別事例に関して具体的な解決方法を検討、提起することをめざす。 なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	通常学級における発達障害等のある児童生徒への教育を行う力量にかかわるレポートを作成し、発表・討論し、指導方法の改善あるいは開発を示すことができる。						
授業の概要	通常学級における発達障害等のある児童生徒への教育を行う力量及び、通常学級における特別支援教育への支援の力量を形成することを目的として、学生自身の実践事例または文献等による実践事例に基づくレポート作成を行い、演習形式で発表・討論を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	レポートの発表と討論、関連する演習。						
授業時間外の学習/予習・復習	授業の準備として、学校における参与並びにそれに関する省察と、関連文献の講読。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション（レポート作成の方法、文献紹介等、課題意識の整理を行う）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
2	個別の指導計画の作成とその要領の検討（1）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
3	幼稚園・小学校・中学校の学級経営上の工夫点の調査とその結果の検討（1）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
4	幼稚園・小学校・中学校の学級経営上の工夫点の調査とその結果の検討（2）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
5	幼稚園・小学校・中学校の学級経営上の工夫点の調査とその結果の検討（3）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
6	個別の指導計画の作成とその要領の検討（2）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
7	幼稚園・小学校・中学校の学習指導上の工夫点の調査とその結果の検討（1）			指示内容を予習（調査）し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			

8	幼稚園・小学校・中学校の学習指導上の工夫点の調査とその結果の検討(2)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
9	幼稚園・小学校・中学校の学習指導上の工夫点の調査とその結果の検討(3)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
10	個別の指導計画の作成とその要領の検討(3)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
11	特別支援教育コーディネーターによる校内体制整備上の工夫点の調査とその結果の検討(1)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
12	特別支援教育コーディネーターによる校内体制整備上の工夫点の調査とその結果の検討(2)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
13	個別の指導計画の作成とその要領の検討(4)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
14	まとめの討論(通常学級における特別支援教育実践に求められる力量と特別支援教育充実の方途)	指示内容を予習(調査)し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	討論の内容	40%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	随時レポート	30%	○	○		○
	期末テスト	30%			○	
評価の基準(具体的に)						
随時のレポートとそれを基にした討論を行う 期末テストとして、レポートを課す。 表記の妥当性(引用等の執筆要領も含む)、論理の一貫性、論拠の明示、内容の妥当性をもって評価する。配点は課題内容に即して設定する。						
履修における留意点						
教科書/教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	1	時間割コード	EG01
授業科目名	教育実践リフレクション			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Reflections on Educational Practices 1						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	金	1	EG01			
【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教育実践専攻に限る。ただし、特別支援教育力開発プログラム履修者は除く。						
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	山本 奨、川上 圭一、田村 忠、中村 宗宏、佐合 智弘						
キーワード	省察、専門実習、理論と実践の融合、教職大学院						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基いた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力」を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強みと課題を説明できる。</li> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>						
授業の概要	専門実習について、あるいは、それにかかわり、必要に応じて、すべての大学院生対象のリフレクション演習と、学卒院生と現職院生を分けてのリフレクション演習を行い、今後の2年間でそれぞれが追求する研究課題を明確にする。学卒院生対象のリフレクション演習では、1年次後期からの実習を効果的に遂行するための基礎的力を育成する。現職院生の場合は、1年次前期に行われる授業力開発実習の経験を踏まえた演習も行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	学卒院生と現職院生それぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。また、必要に応じて学卒院生と現職院生が交流する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施することがある。随時指示する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	【学卒】【現職】共通 オリエンテーション「省察とは、専門実習とは」			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
2	【学卒】授業参観の視点 【現職】授業に関する自己課題の設定			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
3	【学卒】授業参観の視点 【現職】授業分析と改善の具体的方策			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
4	【学卒】授業参観の視点 【現職】年度末までの授業改善のための計画案の作成			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
5	【学卒】【現職】共通			左記に関する予習・復習。ただし、授業			

5	子ども支援にかかわる内容	担当者からの随時の指示による。				
6	【学卒】授業参観の視点 【現職】授業改善に向けた取り組みの確認	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
7	【学卒】授業実践 【現職】授業改善に向けた取り組みの確認	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
8	【学卒】【現職】共通 子ども支援にかかわる内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
9	【学卒】【現職】 仁王小公開に参加	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
10	【学卒】授業実践 【現職】授業改善に向けた取り組みの確認	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
11	【学卒】【現職】共通 子ども支援にかかわる内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
12	【学卒】授業実践 【現職】授業力開発における自己分析	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
13	【学卒】授業実践 【現職】授業力開発における課題設定と今後の取り組み	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
14	【学卒】授業実践 【現職】授業力開発における課題設定と今後の取り組み	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準（具体的に）						
カンファレンスへの係り方，意欲，態度，理解の程度その他，個別の指導計画レポート作成に至るまでの指導チームの教員との協議の状況等により総合的に判断する。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する（学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等）。 予めの準備は不用。					
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	1	時間割コード	EG03
授業科目名	教育実践リフレクション			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Reflections on Educational Practices 3						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	金	2	EG03			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻に限る。ただし特別支援教育力開発プログラムは除く。						
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-4 3 8					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	山本 奨、佐藤 進、田村 忠、高田 麻美、土屋 直人、田代 高章						
キーワード	省察、専門実習、教職大学院、理論と実践の融合						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基づいた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	専門実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力」を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>						
授業の概要	専門実習に基づく、あるいはかかわり、必要に応じて、すべての大学院生対象のリフレクション演習と、学卒院生と現職院生を分けてのリフレクション演習を行い、今後の2年間でそれぞれが追求する研究課題を明確にする。学卒院生対象のリフレクション演習では、1年次後期からの実習を効果的に遂行するための基礎的力を育成する。現職院生の場合は、1年次前期に行われる授業力開発実習の経験を踏まえた演習も行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	学卒院生と現職院生あるいは各プログラムそれぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。						
授業時間外の学習/予習・復習	専門実習とのかかわりにおいて実施することがある。随時指示する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	【学卒】授業分析の具体と運用について 【現職】連携協力校における教育課題（授業力）の把握のために			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
2	【学卒】授業分析の具体と運用について 【現職】連携協力校における教育課題（授業力）の解決のための方策と実践に向けて			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
3	【学卒】授業分析の具体と運用について 【現職】授業力向上のための協働的实践に向けて			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
4	【学卒】授業力向上のための方策についてのまとめ 【現職】子ども支援にかかわる内容1			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
5	【学卒】子ども支援にかかわる内容1			左記に関する予習・復習。ただし、授業			

5	【現職】授業・子ども支援実習	担当者からの随時の指示による。				
6	【学卒】授業・子ども支援実習 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
7	【学卒】授業力向上のための今後の在り方について 【現職】子ども支援にかかわる内容2	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
8	【学卒】子ども支援にかかわる内容2 【現職】仁王小公開に参加	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
9	【学卒】仁王小公開に参加 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
10	【学卒】授業力向上のための今後の在り方について 【現職】子ども支援にかかわる内容3	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
11	【学卒】子ども支援にかかわる内容3 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
12	【学卒】授業力向上のための今後の在り方について 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
13	【学卒】授業力向上のための今後の在り方について 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
14	【学卒】授業力向上のための今後の在り方について 【現職】スーパーティーチャーとしての授業実践	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	演習	50%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	随時の課題	50%	○	○	○	○
評価の基準（具体的に）						
カンファレンスへの係り方、意欲、態度、理解の程度、指導チームの教員との協議状況のほか、学卒 院生の場合には1年次総合実習時からの個々の成長を見取ることとし、現職院生の場合には学卒院生への指導力の高まり等も含めて総合的に判断する。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する（学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等）。 予めの準備は不要。					
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	1	時間割コード	EH01	
授業科目名	特別支援教育・教育実践リフレクション			担当教員名	佐々木 全			
授業科目名：英語	Reflections on Special Needs Education Practices 1							
重複科目名								
セット科目名								
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）		
	1	金	1	EH01				
主な対象学生	教育学研究科 1							
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号				
主な使用言語	Japanese							
履修上の条件	特別支援力開発プログラム履修者に限る。							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）						
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen						
	所属	教育学研究科						
	常勤・非常勤							
	研究室	513						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze						
	個人サイト							
相談可能時間	月水の昼 メール							
他の担当教員	佐藤 信							
キーワード	省察、専門実習、特別支援教育、理論と実践の融合、教職大学院、反省的実践家							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基いた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針						
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%	30%
授業の目的	<p>授業や実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量的」を養う。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強みと課題を説明できる。</li> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>							
授業の概要	授業科目や専門実習について、それらを省察する。省察は、課題レポートの発表を基にすすめ、その内容の検討とあわせて省察の方法自体も検討する。							
実務経験の有無と授業内容への反映								
授業の形式	学卒院生と現職院生それぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。また、必要に応じて学卒院生と現職院生が交流する。							
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施することがある。随時指示する。							
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）								
回/週	授業内容			予習・復習			備考	
1	省察とは			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
2	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
3	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
4	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
5	反省的実践家としての探求課題の検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
6	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討（2）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				



7	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討(2)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
8	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(2)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
9	反省的実践家としての探求課題の検討(2)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
10	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
11	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
12	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
13	反省的実践家としての探求課題の検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
14	半年間の自己成長に関する省察(反省的実践家としての自己を教員育成指標に照らして検討)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準(具体的に)						
レポート及び協議内容では、実践知と理論知の関連への着眼と発展的思考があるか。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する(学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等)。予めの準備は不用。					
教科書/教材						
参考文献	ドナルド・ショーン、専門家の知恵、ゆみる出版、2001年、4946509267					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	前期	単位数	1	時間割コード	EH03
授業科目名	特別支援教育・教育実践リフレクション			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Reflections on Special Needs Education Practices 3						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	金	2	EH03			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特別支援力開発プログラム履修者に限る。						
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月水昼 メール						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	省察、専門実習、特別支援教育、理論と実践の融合、教職大学院、反省的实践家						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基いた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	<p>授業や実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量的」を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強みと課題を説明できる。</li> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>						
授業の概要	授業科目や専門実習について、それらを省察する。省察は、課題レポートの発表を基にすすめ、その内容の検討とあわせて省察の方法自体も検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	学卒院生と現職院生それぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。また、必要に応じて学卒院生と現職院生が交流する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施することがある。随時指示する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	省察とは			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
2	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
3	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
4	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
5	反省的实践家としての探求課題の検討（1）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
6	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討（2）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			

7	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討(2)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
8	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討(2)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
9	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
10	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
11	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
12	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
13	反省的实践家としての探求課題の検討(3)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
14	半年間の自己成長に関する省察(反省的实践家としての自己を教員育成指標に照らして検討)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準(具体的に)						
レポート及び協議内容では、実践知と理論知の関連への着眼と発展的思考があるか。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する(学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等)。予めの準備は不用。					
教科書/教材						
参考文献	ドナルド・ショーン、専門家の知恵、ゆみる出版、2001年、4946509267					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FA02
授業科目名	学習指導要領とカリキュラム開発			担当教員名	田代 高章		
授業科目名：英語	Teaching Guidelines and Curriculum Development						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	1	FA02			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特になし。						
担当教員情報	氏名（カナ）	田代 高章（タシロ タカキ）					
	担当教員名（英語）	Takaaki Tashiro					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-517室					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/396_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/36510417yumanite					
	個人サイト						
相談可能時間	火曜日12:10-12:50を基本とするが、他の時間帯でも空いていれば対応します。メール・電話等で事前確認ください。						
他の担当教員	菊池 新司						
キーワード	学習指導要領、カリキュラムマネジメント、校種間接続、学校の教育課題、PBL						
学位授与方針との関係	岩手大学大学院の学位授与方針の6つのすべてに関連した授業。理論と実践の融合を目指し、協議や発表の場を創りながら、その成果を学校現場で還元していくことを目指す。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現		
		25%	25%	25%	25%		
授業の目的	今日の授業改善の方向性に適した、授業実践に資する具体的な教科・領域に関するカリキュラム構想を各自で立てられるようにする。それをもとに各自の実習校や勤務校での実践で検証し・改善できるようにする。 なお、本科目は（専修免許：幼・小・中・高）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	教育目標、汎用的能力、学校教育目標、教科目標、単元目標の全体連関のもとで、学習指導要領を踏まえた、子どもの学びを促す教科・領域のカリキュラム構想を立案する。その一部を実習でも検証し、カリキュラム改善を行いながら、岩手の教育課題に即して、カリキュラムマネジメントを意識した授業力を形成する。						
授業の概要	教育実習と関連させながら、自分の課題意識に基づく教科・領域のカリキュラムの全体計画を構想し、模擬授業・場面指導、実習先での授業実践を通じて、今回の学習指導要領改訂を念頭に、岩手の教育現実や教育課題に即したカリキュラム開発の力とカリキュラムマネジメントに基づく授業改善の方法論を修得していく。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	個人活動やグループワークを取り入れた問題解決型の演習方式を念頭に授業を進める。						
授業時間外の学習/予習・復習	文献調査や学校実態調査、関係機関・関係者等への聞き取り調査、発表資料づくりなど、教室外での活動も想定している。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス			学習指導要領の事前読み込み（特に、総則編の解説）。			
2	学習指導要領 総則の理解			手持ち・図書館所蔵図書等、様々なテキストを活用しながら、学習指導要領総則編の重要事項のレポート発表準備を行う。			
3	学習指導要領 総則の理解			様々な資料をもとに、学習指導要領総則編の重要事項のレポート発表準備を行う。			
4	学習指導要領 総則の理解			様々な資料をもとに、学習指導要領総則編の重要事項のレポート発表準備を行う。			
5	カリキュラム開発のためのテーマを設定し（4			学習課題として設定した3～4つのテ			

5	テーマ想定)グループ分けを行う。グループワーク開始	マについて情報収集を開始する。	
6	グループワーク	学習課題として設定した3～4つのテーマについて情報収集を開始する。	
7	グループワーク	学習課題として設定した3～4つのテーマについて情報収集を開始する。必要に応じて、学校訪問調査を行う。	
8	グループワーク	中間発表会の準備を行う。	
9	グループワーク 中間発表	中間発表会の成果と課題を踏まえて、改善点について整理する。	
10	グループワーク	中間発表会の改善について、学習課題として設定した3～4つのテーマに関する情報収集を開始し、カリキュラム改善の見通しを持つ。	
11	グループワーク	中間発表会の改善について、学習課題として設定した3～4つのテーマに関する情報収集を開始し、カリキュラム改善の見通しを持つ。	
12	グループワーク	最終発表会に向けた発表準備(ポスター制作、口頭発表資料づくり等)を行う。	
13	グループワーク	最終発表会の準備と事後の反省。	
14	まとめ(最終発表会と講評)	今期全体の成果と課題を全体計画案とともに大学教員宛で提出する。	
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	20%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	50%				
期末レポート	30%					

評価の基準(具体的に)

出席は前提条件。初回ガイダンスとそれ以降の授業の中で確認していく。いくつかのユニットで課題を提示し、その課題を解決していくプロセスも含めての全体評価とする。いわゆる、パフォーマンス課題に基づく、パフォーマンス評価が中心となる。

履修における留意点	
教科書/教材	
参考文献	文部科学省、小学校学習指導要領解説 総則編、東洋館出版社、2018年 文部科学省、中学校学習指導要領解説 総則編、東山書房、2020年 文部科学省、高等学校学習指導要領解説 総則編、東洋館出版社、2019年 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編、カリキュラムマネジメント・ハンドブック、ぎょうせい、2016年
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FA04
授業科目名	ICT活用教育の実践と課題			担当教員名	宮川 洋一		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Education with ICT						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	2	FA04			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 学校マネジメント力開発プログラム 1 / 教育学研究科 授業力開発プログラム 1 / 教育学研究科 子ども支援力開発プログラム 1 / 教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	宮川 洋一（ミヤガワヨイチ）					
	担当教員名（英語）	Yoichi Miyagawa					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-116					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/674_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/rs3y					
	個人サイト						
	相談可能時間	水曜日15:00-16:00					
他の担当教員							
キーワード	教育の情報化、情報活用能力、ICT活用、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、数理データ						
学位授与方針との関係	この科目は、教育学研究科における学位授与の方針、（専門分野の応用的・実践的な知識・技能）「2. 教育実践の現代的諸課題に心えうる高度な専門的知識と実践的指導力を修得している。」の達成に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				40%	20%	20%	20%
授業の目的	文部科学省が示す「教員のICT活用指導力のチェックリスト」の4観点の内、「授業中にICTを活用して指導する能力」「情報モラルなどを指導する能力」の形成を目標とする。 なお、本科目は幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育を含めた「教育の情報化」に対応した指導力を高めることができる。</li> <li>・タブレット・大型提示装置を操作することができる。</li> <li>・タブレット・大型提示装置を用いた一斉・個別・協働学習の指導計画が立案、模擬実施ができる。</li> <li>・新しい学習指導要領における「情報活用能力」の位置づけについて、その背景を説明できる。</li> <li>・情報モラル教育に関する最新研究の概要を踏まえ、発達段階に応じた情報モラル教育に関する指導計画を立案できる。</li> <li>・教員としての情報セキュリティに対する知識を身につけ、意識を高められる。</li> </ul>						
授業の概要	ICT活用のための基本的な知識と技能（ネットワークに関する事項等も含む）の教授、タブレット・電子黒板を用いた一斉・個別・協働学習の模擬実習、特別に支援を要する幼児児童生徒へのICT活用事例の検討、発達段階に応じた情報モラル教育に関する最新研究成果の検討を行う。また、「教育の情報化」について解説する。						
実務経験の有無と授業内容への反映	担当者全員実務経験がある。各教員の实務経験を踏まえつつ、理論と実践の往還となるように内容を構成している						
授業の形式	講義＋演習						
授業時間外の学習/予習・復習	毎年2月に開催される岩手県教育研究発表会・情報教育分科会へ出席することが望ましい。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション - Society 5.0で生きるための情報活用能力 - 「社会的背景の変化と教育の情報化」について論じる（講義）。			教育の情報化に関する手引き			主担当 宮川
2	プログラミング教育の本質及びSTEAM教育の考え方について論じる（講義）。			教育の情報化に関する手引き			主担当 宮川
3	ICT活用の利活用に関する実践事例及び教育効果について論じる（講義）。			教育の情報化に関する手引き			主担当 宮川

4	情報セキュリティについて論じる（講義）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
5	クラウド、タブレット、大型提示装置等のICT機器を活用した教材の在り方について論じ、モデルアプリの操作方法を解説する（演習）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 早坂			
6	教材アプリを活用した各種校種 [ 幼小中等学校・特別支援を含む ] ・教科等での単元を開発する（1）（演習）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 早坂			
7	教材アプリを活用した各種校種（幼小中等学校・特別支援を含む）・教科等での単元を開発する（2）（演習）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 早坂			
8	クラウド、ノートパソコン、タブレット（スマホ）、大型提示装置等のICT機器を活用した協働学習の模擬授業をグループで実施する（演習）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 早坂			
9	幼稚園・小学校・中学校・高等学校における発達段階を踏まえた「情報モラル教育」のよりよい在り方について、研究成果に基づき論じる。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
10	プログラミング教育の教材研究を実施する。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
11	教育データの利活用法（プログラミングを含む）について論じる（1：演習を含む）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
12	教育データの利活用法（プログラミングを含む）について論じる（2：演習を含む）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
13	教育データの利活用法（プログラミングを含む）について論じる（3：演習を含む）。	教育の情報化に関する手引き	主担当 宮川			
14	これからのICTを活用した学習についてまとめを行う。 定期試験を実施する。	これまでの総復習	主担当 宮川			
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	20%				
	課題	40%				
期末テスト	40%					
評価の基準（具体的に）						
<p>平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場の授業を想定して各種実習に参加している。</li> <li>・討論へ自分の考えを明確に示している。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者主体の情報モラルまたはプログラミング教育の指導計画（複数時間の題材展開案）を立案できる。</li> </ul> <p>期末テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で説明した内容について説明できる。</li> </ul>						
履修における留意点						
教科書 / 教材	文部科学省、教育の情報化に関する手引き、文部科学省					
参考文献	森山潤 他、iPadで拓く学びのイノベーション、高陵社、2013年					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FA06
授業科目名	通常学級における特別支援教育の実践と課題			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Special Needs Education in Regular Classes						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	月	1	FA06			
【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月水昼 メール（zensky@iwate-u.ac.jp）						
他の担当教員							
キーワード	特別支援教育、通常の学級、特別な教育的ニーズ						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				25%	25%	30%	20%
授業の目的	<p>・通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の概要、通常学級における特別支援教育に関する規定などの理解 ・通常学級に在籍する児童生徒に対する教科指導及び生徒指導を行う上での留意点、放課後支援や休日支援などの家庭生活や地域生活で主体的に活動し、社会生活力を高められるための支援の在り方などの理解</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。</p>						
到達目標	<p>・通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の概要、通常学級における特別支援教育に関する規定などを説明できる。 ・通常学級に在籍する児童生徒に対する教科指導及び生徒指導を行う上での留意点、放課後支援や休日支援などの家庭生活や地域生活で主体的に活動し、社会生活力を高められるための支援の在り方などを説明し課題解決の方途について提案できる。</p>						
授業の概要	通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の概要、障害者の権利に関する条約及び国内法制度による通常学級における特別支援教育に関する規定などを総論的に概説する。さらに、これらの児童生徒に対する教科指導及び生徒指導を行う上での留意点、放課後支援や休日支援などの家庭生活や地域生活で主体的に活動し、社会生活力を高められるための支援の在り方などを、現在の実践現場における現状と課題を踏まえ、概説する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	概説に基づき、レポートの発表と討論などを合わせて行う。						
授業時間外の学習/予習・復習	授業の予習復習としてのレポート作成を能動的に行うこと。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	特別支援教育の意義と制度とその背景にある理念について理解し、わが国の通常学級での特別支援の具体的な取り組みについて考える。			以下について、指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。（各回同様） 文部科学省関連資料			
2	障害の概念と特別な教育ニーズについて理解し、通常学級に在籍する児童生徒の課題や問題について考える。			発達障害者支援法と、発達障害の定義			
3	障害の概念を踏まえ、学習支援及び生徒指導の			学校における実践と理論（書字障害を事			



3	観点、並びに、小・中・高等学校段階の縦断的観点から個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容を考える。: 書字の概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	例として)	
4	障害の概念を踏まえ、学習支援及び生徒指導の観点、並びに、小・中・高等学校段階の縦断的観点から個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容を考える。:読字障害の概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(読字障害を事例として)	
5	障害の概念を踏まえ、学習支援及び生徒指導の観点、並びに、小・中・高等学校段階の縦断的観点から個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容を考える。:計算障害の概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(計算障害を事例として)	
6	障害の概念を踏まえ、学習支援及び生徒指導の観点、並びに、小・中・高等学校段階の縦断的観点から個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容を考える。:ADHDの概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(ADHDを事例として)	
7	学習・行動・生活・対人関係などのアセスメントをし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。:ASDの概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(ASDを事例として)	
8	学習・行動・生活・対人関係などのアセスメントをし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。:DCDの概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(DCDを事例として)	
9	学習・行動・生活・対人関係などのアセスメントをし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。: 感覚の異常あるいは障害の概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(感覚の異常を事例として)	
10	学習・行動・生活・対人関係などのアセスメントをし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。:二次障害の概念を踏まえ、実態把握をし、学習支援及び生徒指導の観点から相談支援の内容と方法を考える。	学校における実践と理論(二次的障害を事例として)	
11	各学校段階における支援体制の構築とその中心である校内委員会及び特別支援教育コーディネーターの役割について考える。	学校における実践と理論(校内連携、支援体制を事例として)	
12	本県の学校や教育委員会などにおける支援体制や地域性などを、わが国の一般的な状況との相対から理解し、本県での包括的な支援を考える。	学校における実践と理論(校外連携、支援体制を事例として)	
13	学校内外の資源の活用や連携を想定し、個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成及び活用を考える。	学校における実践と理論(個別の指導計画等の作成方法にかかる演習として)	
14	まとめ 発達障害等の児童生徒の社会生活力を高める支援のあり方と課題	学校における実践と理論(教育目標とその実現のための具体的方策)	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	討論	50%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	随時の課題	20%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	期末テスト	30%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
評価の基準(具体的に)			

期末テストの形式については別途指示する。  
討論、表記の妥当性、論理の一貫性、論拠の明示、内容の妥当性をもって評価する。配点は課題内容に即して設定する。

履修における留意点	
教科書 / 教材	
参考文献	
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FA08
授業科目名	学校経営の実践と課題			担当教員名	川上 圭一		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in School Administration						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	1	FA08			
【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）							
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 1						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	川上 圭一（加於ケイイチ）					
	担当教員名（英語）	Kawakami Keiichi					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-5-508B					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
	相談可能時間	水曜日の昼休み等					
他の担当教員	鈴木 久米男、中村 宗宏						
キーワード	リーダーシップ、学校のビジョン、学校の組織開発、学級経営						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の、2：専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3：高度な実践的指導力の基盤となる能力、4：専門性に基づいた問題解決能力等の達成に寄与する。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	学校経営の基礎的知見としての理論と実際の取り組みとしての実践の関わりを理解する。このことを踏まえ教育活動の質を高める経営として、現状認識による具体的な活動を演習により理解する。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力・特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	学校で行われるべき活動を踏まえて、活動の質を向上させるための学校経営の在り方を理解させる。						
授業の概要	学校経営において、学校組織マネジメントの理論を援用するとともに、学校経営方針としてのビジョン設定、学級経営、教職員の指導力の向上、組織開発の方法、危機管理、関係機関との連携の在り方などの知見を理解させる。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義や演習、さらに院生の発表に基づいた協議 等						
授業時間外の学習/予習・復習	実習校において学修事項の活用を図る。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	学校経営とは何か			予習：シラバスの確認 復習：本時の学修事項の復習			
2	学校管理職の役割			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
3	教育活動の成果とは			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
4	学校組織文化の形成			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
5	学校ビジョンと学級経営との関わり			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
6	様々な成果の検証			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
7	学級集団の指導			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			

8	学校としての説明責任	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
9	学級担任としての力量形成	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
10	様々な資料等による成果の検証	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
11	学校の危機管理と安全教育	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
12	学級担任の業務	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
13	ビジョン実現における事務職の役割	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
14	学校経営と教育委員会等との関係	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%				
	iカード	0%				
	小テスト	30%				
	課題	40%				
	期末テスト	0%				
評価の基準（具体的に）						
授業における学修課題の発表や協議への取り組みの様子とともに、演習や課題への結果を成績判定の資料とする。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FB02
授業科目名	いわての復興教育の実践と課題			担当教員名	本山 敬祐		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Education for Reconstruction in Iwate						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	3	FB02			
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	本山 敬祐（モトヤマ ケイスケ）					
	担当教員名（英語）	MOTOYAMA Keisuke					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟 514					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/974_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/motoyamakeisuke					
	個人サイト						
相談可能時間	相談希望の教員に事前にご連絡ください。						
他の担当教員	田村 忠						
キーワード	東日本大震災、いわての復興教育、語り・継ぐ、学校と地域、エージェンシー、教科教育等との接続、地域関連科目、SDGs						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシーの、2.専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3.高度な実践的指導力の基盤となる能力、4.専門性に基づいた問題解決能力等の育成に寄与する。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	30%
授業の目的	岩手県が東日本大震災からの復興施策の一環に位置づけている「いわての復興教育」の基本的な理念と教育目標を理解するとともに、「いわての復興教育」を効果的に推進するために必要な学校経営及び学習指導に関する実践的力を修得する。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力を養う。						
到達目標	「いわての復興教育」の基本理念と教育目標を理解し、復興教育に係る各自の課題を明確化し説明することができる。また、課題解決に向けた取組を学校マネジメントの視点や学習指導の視点で捉え説明することができる。						
授業の概要	東日本大震災とどのように向き合ってきたのか、あるいは向き合えばよいのかを考えながら、「いわての復興教育」の基本理念と教育目標を理解し、復興教育の成果と課題を明らかにする。また、明らかになった課題を解決するための調査活動を通じて、教育効果をあげるために必要な学校マネジメント及び学習指導に関する実践的力の修得を目指す。						
実務経験の有無と授業内容への反映	東日本震災時に教育現場や教育行政機関に勤務していた経験をはじめ、学校現場で「いわての復興教育」を実施してきた経験が反映されている。						
授業の形式	講義・演習、調査研究、発表。						
授業時間外の学習/予習・復習	一部予習有り。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	ガイダンス/それぞれの「あの日のこと」、「あの日からのこと」			予習：東日本大震災津波に関するこれまでの経験や考えてきたことを可能な範囲で言語化してきてください。「語り・継ぎ」トランプに触れておいてください。			
2	講義（1）東日本大震災津波 そのとき、学校は			予習：東日本大震災による被災状況を振り返ったり、釜石小学校の出来事についてイメージをもっておいてください。 復習：自身の経験や連携勤務校等の現状と関連付けて、いわての復興教育を推進するための課題を考えてください。			
3	講義（2）東日本大震災津波 そのとき、教育委員会は			予習：東日本大震災津波当時の岩手県の対応を振り返ったり、他県との違いについてイメージをもっておいてください。 復習：自身の経験や連携勤務校等の現状と関連付けて、いわての復興教育を推進するための課題を考えてください。			

4	講義(3) いわたの復興教育と教科教育とのつながり	予習：いわたの復興教育と教科教育のつながりについて、これまでの実践を振り返ったり、調査等からイメージをもっておいください。 復習：自身の経験や連携勤務校等の現状と関連付けて、いわたの復興教育を推進するための課題を考えてください。	
5	講義(4) いわたの復興教育の広がりや校内組織開発	予習：いわたの復興教育と地域とのつながりや復興教育担当者が孤立しないための学校づくりについて、これまでの実践を振り返ったり、調査等からイメージをもっておいください。 復習：自身の経験や連携勤務校等の現状と関連付けて、いわたの復興教育を推進するための課題を考えてください。	
6	講義(5) いわたの復興教育の更なる発展に向けて	予習：東日本大震災から12年経った今、いわたの復興教育の価値や今後もいわたの復興教育を発展させるうえで必要なことについて、これまでの実践を振り返ったり、調査等からイメージをもっておいください。 復習：自身の経験や連携勤務校等の現状と関連付けて、いわたの復興教育を推進するための課題を考えてください。	
7	前半の振り返り	予習：これまでの講義内容を振り返り、新たに気づいたことを言語化しておいください。	
8	課題に対する調査活動(1)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
9	課題に対する調査活動(2)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
10	中間発表・課題に対する調査活動(3)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
11	課題に対する調査活動(4)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
12	課題に対する調査活動(5)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
13	課題に対する調査活動(6)	最終成果物の創作に向けて計画的に、協働的に取り組んでください。	
14	成果発表・まとめ	予習：最終プレゼンの発表準備をしておいください。	
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	レスポンスカード	30%	○	○		○
課題		70%		○		

評価の基準(具体的に)

毎時間の取組状況(発言内容、レスポンスカード)や最終レポートの内容で下記の基準が達成されているか評価を行う。  
「いわたの復興教育」の基本理念と教育目標を理解している。  
県内各地における実践事例の分析を踏まえ、復興教育に係る自分の課題を明確化し考察できる。  
課題解決に向けて、学校マネジメントの視点や校種の特徴を踏まえた学習指導の視点で具体的な成果物を生み出すことができる。

履修における留意点	
教科書/教材	
参考文献	NHKスペシャル取材班、『釜石の奇跡：どんな防災教育が子どもの"いのち"を救えるのか?』、イースト・プレス、2015年、978478161281 望月善次・関口厚光編著、『被災の町の学校再開：武藤美由紀大槌町教育委員会派遣・駐在指導主事の証言』、岩手復興書店、2015年、9784907100254 岩手県教育委員会、『いきる かかわる そなえる』(「いわたの復興教育」副読本)、岩手県教育委員会 清水睦美ほか、『震災と学校のエスノグラフィー：近代教育システムの慣性と摩擦』、勁草書房、2020年、9784326251407 青木栄一編、『復旧・復興へ向かう地域と学校』、東洋経済新報社、2015年、9784492223611 釜石市教育委員会ほか、『釜石市津波防災教育のための手引き』、釜石市、2013年



年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FB03
授業科目名	学校トラブル処理の実践演習			担当教員名	本山 敬祐		
授業科目名：英語	Practical Seminar in Troubleshooting at School						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	2	FB03			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	本山 敬祐（モトヤマ ケイスケ）					
	担当教員名（英語）	Keisuke MOTOYAMA					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部・総合教育研究棟（教育系）514室					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/974_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/motoyamakeisuke					
	個人サイト						
相談可能時間	事前にメールでご相談ください。						
他の担当教員							
キーワード	危機管理、メディエーション、ナラティブ、安全・安心な学級・学校づくり						
学位授与方針との関係	教育学研究科のディプロマポリシーの1.2.3.に対応。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	20%
授業の目的	本科目では、テキストの会読を通して、クライシスコミュニケーションの観点から危機管理について基本的な視点や方法を学びます。また、対話による問題解決の手法の一つであるメディエーションについて基礎的な知識とスキルを修得し、子ども自身の問題解決力向上に資する指導力を養います。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目です。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」を養います。						
到達目標	：テキストの会読を通じて過去の学校トラブルの事例を検討し、より望ましい対処方法が検討できるようになること。 ：対話的な問題解決を図るための視点や基本的なスキルを身に付けること。						
授業の概要	テキストを通じて基礎的な概念や視点を獲得します。身に付けた知識や視点をもとに、初見の事例について考察する力を養います。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	テキストの精読およびケースの検討を中心とする演習。						
授業時間外の学習/予習・復習	具体的な予習・復習内容についてはその都度お伝えします。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容	予習・復習				備考	
1	ガイダンス	（予習）シラバスを読んでくること。 （復習）配布資料を読んでおくこと。					
2	なぜクライシスコミュニケーションが重要なのか	（予習）関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでくること。 （復習）配布資料を読んでおくこと。					
3	リスクマネジメントの訓練	（予習）関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでくること。 （復習）配布資料を読んでおくこと。					
4	緊急記者会見への備え	（予習）関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでくること。 （復習）配布資料を読んでおくこと。					
5	あの事件・事故の教訓	（予習）関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでくること。					



5		(復習) 配付資料を読んでおくこと。				
6	外から見た学校クライシスコミュニケーション	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでおくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
7	メディアーションの理論とアプローチ	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。テキストの該当箇所及び配布資料を読んでおくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
8	多様性を理解する	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
9	ナラティブ・メディアーション(1)	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
10	ナラティブ・メディアーション(2)	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
11	ピア・メディアーション	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
12	受講者によるプレゼン(1)	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
13	受講者によるプレゼン(2)	(予習) 関連科目の内容を復習しておくこと。 (復習) 配付資料を読んでおくこと。				
14	まとめ	(復習) 配付資料を読んでおくこと。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	授業での活動	50%	○			
	レスポンスカード	0%				
	小テスト	0%				
	期末課題	50%				
	期末テスト	0%				
評価の基準(具体的に)						
授業での活動については、テキストの精読や演習への参加状況をもとに評価します。 期末課題については、講義期間中にこの科目で学んだことをお一人ずつプレゼンしていただきます。						
履修における留意点						
教科書/教材	石川慶子、『なぜあの学校は危機対応を間違えたのか 被害を最小限に抑え信頼を守るクライシスコミュニケーション』、教育開発研究所、2020年					
参考文献	永堀宏美、『保護者トラブルを生まない学校経営を保護者の目線で考えました』、教育開発研究所、2018年 池島徳大(著・監修)、『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法! 指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディアーションとクラスづくり』、ほんの森出版、2011年、978493887477 ジョン・ウィンズレイドほか、『いじめ・暴力に向き合う学校づくり: 対立を修復し、学びに変えるナラティブ・アプローチ』、新曜社、2016年、978478851491 山口権治、中学校・高校 ピア・サポートを生かした学級づくりプログラム、明治図書出版、2019年 『月刊学校教育相談』編集部、シンプルな12のワークが子ども同士の関係性を劇的に変える、ほんの森出版 エイミー・C・エドモンドソン、恐れのない組織 「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす、英治出版、2021年					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FB05
授業科目名	学校評価の取組と学校改善の実践演習			担当教員名	鈴木 久米男		
授業科目名：英語	Practical Seminar in School Assessment and Improvement						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	4	FB05			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 1						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	鈴木 久米男（スズキ キクメオ）					
	担当教員名（英語）	Suzuki Kumeo					
	所属						
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/827_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/_ku-suzu_					
	個人サイト						
相談可能時間	水曜日の昼休み等						
他の担当教員							
キーワード	学校ビジョン、学校評価、教育評価						
学位授与方針との関係	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の、2：専門分野の応用的・実践的な知識・技能、3：高度な実践的指導力の基盤となる能力、4：専門性に基づいた問題解決能力等の達成に寄与する。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	30%
授業の目的	学校評価の役割や実施手順を理解する。さらに学校評価への取り組みをとおして教職員の協働や学校関係者との連携、組織開発を促すための具体的な手立てを理解する。なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量」を養う。						
到達目標	学校は様々な場面で説明責任を求められているが、学校評価を実施することにより、学校における教育活動の見直しの在り方や、組織活性化を図る手順、方法を理解させる。						
授業の概要	学校評価実施の目的として、外部への説明責任を果たすことと教育活動の質を高めることがあり、成果を示す根拠としてデータ等のエビデンスが必要であることを理解させる。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義や演習、さらに院生の発表に基づいた協議 等						
授業時間外の学習/予習・復習	実習校の学校評価の実践状況の把握な手順改善の提言 等						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	学校評価とは			予習：シラバスの確認 復習：本時の学修事項の復習			
2	教育活動における評価と説明責任			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
3	学校評価の取り組みの実際			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
4	課題の解決と効果の検証			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
5	評価のための質問項目の検討			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
6	学校における評価のシステム化			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
7	SQSやForms等による質問紙の作成			予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習			
8	調査結果の分析 その1			予習：前時の学修事項の確認			

8		復習：本時の学修事項の復習				
9	調査結果の分析 その2	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
10	学校ビジョンに基づいた評価	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
11	学校評価と目標管理制度	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
12	外部評価の実施	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
13	評価結果の公表	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
14	評価結果に基づいた学校ビジョンの改訂	予習：前時の学修事項の確認 復習：本時の学修事項の復習				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%				
	iカード	0%				
	小テスト	30%				
	課題	40%				
	期末テスト	0%				
評価の基準（具体的に）						
授業における学修課題の発表や協議への取り組みの様子とともに、演習や課題への結果を成績判定の資料とする。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC02
授業科目名	授業の構想と教材研究			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Class Design and Research on Teaching Materials						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	月	4	FC02			
主な対象学生	教育学研究科 授業力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	立花 正男（タチバナマサオ）					
	担当教員名（英語）	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/tatimasa825					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	清水 将						
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」「専門性に基づいた問題解決能力」の達成に寄与している。」			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	授業設計段階、授業実践過程における教師の意思決定の諸要素について理解し、授業で学んだことをもとに連携協力校における実習等で授業における意思決定や授業方略について実践することができる。なお、本科目は専修免許（小学校、中学校・数学、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	授業設計段階、授業実践過程における教師の意思決定の諸要素について理解することができる。また、授業設計段階での教材研究の意義の理解することができる。						
授業の概要	教師は、授業設計段階（授業デザイン）において、授業目標、授業内容、教材、学習指導法、学習活動、学習形態、メディア、学習時間の配分などの各授業構成要素を決定しなければならない。本授業においては、これらの授業デザイン段階における教師の意思決定や授業方略について事例および先行研究を参照しながら検討を行う。さらに、授業構想において不可欠である教材研究の意義について検討を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及び演習						
授業時間外の学習/予習・復習	なし						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション			授業作りの課題の整理			
2	授業の構想と意義			授業づくりと教材研究の関係の整理			
3	授業の目標作りと教材研究			授業づくりと教材研究の関係の整理			
4	発問の種類と機能			授業づくりと教材研究の関係の整理			
5	集団学習の意義と方法			授業づくりと教材研究の関係の整理			
6	板書とノート指導の在り方			授業づくりと教材研究の関係の整理			
7	机間指導の意義と方法			授業づくりと教材研究の関係の整理			
8	模擬授業の意義と方法			授業づくりと教材研究の関係の整理			
9	授業の構想と教材研究の実際（実技教科以外）			授業づくりと教材研究の関係の整理			
10	授業の構想と教材研究の実際（実技教科）			授業づくりと教材研究の関係の整理			

11	授業の構想と教材研究に基づく模擬授業（実技教科以外）	授業づくりと教材研究の関係の整理				
12	授業の構想と教材研究に基づく模擬授業（実技教科）	授業づくりと教材研究の関係の整理				
13	授業の構想と教材研究に基づく模擬授業の改善（実技教科以外）	授業づくりと教材研究の関係の整理				
14	授業の構想と教材研究に基づく模擬授業の改善（実技教科）	授業づくりと教材研究の関係の整理				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	50%				
	i カード	0%				
	小テスト	0%				
	課題	50%				
	期末テスト	0%				
評価の基準（具体的に）						
レポートの内容 5 割，授業の提案の内容 5 割						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC05
授業科目名	社会科学教育の実践と課題			担当教員名	今野 日出晴		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Social Studies Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	火	2	FC05			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	今野 日出晴（コノヒデハル）					
	担当教員名（英語）	HIDEHARU KONNO					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-416					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/643_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/read0204759					
	個人サイト						
相談可能時間	水曜日3時間目は、事前の予約なしに、相談できる						
他の担当教員	土屋 直人						
キーワード	社会科学教育、教材開発、授業づくり、実践分析、Social Studies						
学位授与方針との関係	本科目は、授業力開発プログラムの科目であり、学位授与の方針で、主要には「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」の達成に寄与している。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	30%
授業の目的	<p>小学校・中学校における社会科学の意義と役割、社会科学教育の理論と実践をめぐる諸問題について考察し、社会科学授業実践の分析検討や授業づくり、具体的な教材の検討をおこない、授業創造のための基礎的な技能の育成をはかることを目的とする。「教員養成の目標達成のための計画」との関連については、「授業力開発プログラムは、教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する」に寄与する。</p> <p>なお、本科目は（専修免許：小・中（社会））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。</p>						
到達目標	<p>小学校・中学校における社会科学の意義と役割、社会科学教育の理論と実践をめぐる諸問題について考察することができる。</p> <p>社会科学授業実践の分析検討や授業づくり、具体的な教材の開発をおこない、授業を創造することができる。</p> <p>文献の講読と演習を通して社会科学教育研究の理論や課題・方法について、理解することができる。</p>						
授業の概要	<p>まず小学校および中学校の教育課程における社会科学の位置、社会科学教育研究を概観し、社会科学教育の理論と実践をめぐる諸問題について考察する。次に、社会科学の授業実践の分析と検討をおこなうとともに、具体的な教材を検討することで、授業創造のための基礎的な技能を育成する。そして、社会科学教育研究の課題や、授業実践研究等に関わる諸文献の講読をおこない、社会科学教育研究の手法を習得する。最後に、小学校・中学校の教育課程における社会科学の意義と役割を考察する。</p>						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	担当教員2名による講義と演習方式						
授業時間外の学習/予習・復習	授業のための調査研究及び資料の作成のためにかなりの学習が必要となる						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	小学校および中学校の教育課程と社会科学の位置			講義全体のフレームワークを理解し、社会科学教育研究の内容と方法を確認する			
2	社会科学教育研究に関する文献講読（地歴）（担当：今野）			文献理解のためのレジメ作成と発表の準備をする			
3	社会科学教育研究に関する文献講読（公民）（担当：土屋）			文献理解のためのレジメ作成と発表の準備をする			
4	社会科学教育の理論と実践に関する文献講読（地歴）（担当：今野）			文献理解のためのレジメ作成と発表の準備をする			
5	社会科学教育の理論と実践に関する文献講読			文献理解のためのレジメ作成と発表の準備			

5	(公民)(担当:土屋)	備をする	
6	社会科教育実践の意義と課題(小括)	これまでの文献購読の内容をまとめ、課題を確認する	
7	社会科授業の構想、教材検討、質疑討論 地域教材の作成	社会科授業を構想し、それをまとめてレジメを作成し、発表の準備をする	
8	社会科授業の構想、教材検討、質疑討論 教材化の視点の明確化	社会科授業を構想し、それをまとめてレジメを作成し、発表の準備をする	
9	社会科授業の構想、教材検討、質疑討論 授業展開の構想	社会科授業を構想し、それをまとめてレジメを作成し、発表の準備をする	
10	授業の実際化(模擬授業ないし現場実習を念頭に)	社会科授業を構想し、それをまとめてレジメを作成し、発表の準備をする	
11	授業の振り返り・分析、研究課題の明確化、質疑討論	社会科の授業構想をふりかえり、研究課題を明確にする	
12	関連する先行授業実践記録の講読、実践分析 (地歴)(担当:今野)	授業実践理解のためにレジメを作成し、発表の準備をする	
13	関連する先行授業実践記録の講読、実践分析 (公民)(担当:土屋)	授業実践理解のためにレジメを作成し、発表の準備をする	
14	授業研究の成果、社会科の授業創造をめぐる課題	これまでの授業をまとえて、研究課題を明確にする	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点	70%	
	iカード	0%	
	小テスト	0%	
	課題	30%	
	期末テスト	0%	
評価の基準(具体的に)			
社会科教育研究や、授業実践研究等に関わる諸文献の講読をおこない、そのためのレジメを作成し、その理解について質疑応答をおこなう。具体的な授業構想や教材開発の課題に関しての調査研究の成果やミニ・レポートを作成する。小学校・中学校の教育課程に関する社会科の意義と役割についての最終レポートを作成する。以上、平常の授業参加、調査研究、レポート等を総合的に判断して評価する。			
履修における留意点			
教科書/教材	日本社会科教育学会、社会科授業力の開発 中学校・高等学校編 研究者と実践家のコラボによる新しい提案、明治図書 日本社会科教育学会、社会科授業力の開発 小学校編 研究者と実践家のコラボによる新しい提案、明治図書、2008年		
参考文献	日本社会科教育学会、新版 社会科教育事典、ぎょうせい、2012年		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC08
授業科目名	英語科教育の実践と課題			担当教員名	HALL JAMES MERIWETHER		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in English Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	2	FC08			
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	English						
履修上の条件	使用する源とは英語と日本語ですが、英語の論文を読んだり、英語でディスカッションをします。						
担当教員情報	氏名（カナ）	HALL JAMES MERIWETHER（ホ-ルジ-エ-ムズ メリウエ-）					
	担当教員名（英語）	James M Hall					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-439					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト	<a href="https://logos.edu.iwate-u.ac.jp/jhoffice/james-m-halls-homepage/">https://logos.edu.iwate-u.ac.jp/jhoffice/james-m-halls-homepage/</a>					
	相談可能時間	水曜日 12：10～13：00					
他の担当教員	小川 春美						
キーワード	中学校英語教育、高校英語教育、英語教育研究法、アセスメント、CLIL、SLA						
学位授与方針との関係	This class is for first or second year students and will help you develop the academic reading skills necessary to do background reading in English to pursue your research topic. It will also help you to develop your practical English teaching skills and evaluate your and other's teaching from the perspective of English education research.			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				25%	25%	25%	25%
授業の目的	In this class students will become familiar with the research literature related to improving the teaching and learning English and use these findings to help with their own research and teaching. なお、本科目は（専修免許：中（英語）・高（英語））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	(1) Explain the primary issues in instructed second language learning. (2) Explain the primary issues in research in assessment. (3) Explain issues in Content and Language Integrated Learning. (4) Become a more efficient reader in English academic reading. (5) Explain issues with language policy at junior high schools. (6) Describe how research issues in instruction second language learning, assessment, or CLIL relate to Japanese schools.						
授業の概要	In the first four weeks of this course, we will familiarize ourselves with relevant research in instructed language learning and assessment. After that, we will study a specific methodology: CLIL and consider issues with using authentic materials in the class. Next, we will review the Course of Study and Issues with foreign language education at Iwate junior high schools. Lastly, as a final project, we will present about a research article relevant to an issue in assessment, instructed second language learning, or CLIL and discuss how this issue can be seen in Japanese secondary schools.						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	The class will have discussions, lectures, presentations, practice teaching, and observation.						
授業時間外の学習/予習・復習	There will be weekly reading and a written literature review as a final report.						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	Orientation, start reading about instructed second language teaching and learning (Hall) 10/7			TBA			
2	Reading about Instructed Second Language Teaching and Learning (Hall) 10/14			TBA			



3	Reading about Instructed Second Language Teaching and Learning (Hall) 10/21	TBA				
4	Reading about Instructed Second Language Teaching and Learning (Hall) 10/28	TBA				
5	Readings about CLIL (Ogawa) 11/4	TBA				
6	Readings about CLIL (Ogawa) 11/11	TBA				
7	Readings about CLIL (Ogawa) 11/18	TBA				
8	Readings about CLIL (Ogawa) 11/25	TBA				
9	Junior High School English Education: The New Course of Study (Kanno) 12/2	TBA				
10	Junior High School English Education 12/9 (Kanno)	TBA				
11	Mock Lesson (Kanno)	TBA				
12	Reflection of Mock Lessons (Kanno)	TBA				
13	Presenting research articles about one's area of study	TBA				
14	Presenting research articles about one's area of study	TBA				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	Participation	50%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	Final Presentation	50%	100%	30%	30%	30%
評価の基準（具体的に）						
For the final presentation, you should summarize a research article relate and discuss its implications for foreign language education in Japanese secondary schools. You should also write a report about it.						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC10
授業科目名	図工科・美術科教育の実践と課題			担当教員名	和田 学		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Handicraft and Art Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	4	FC10			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	和田 学（ワダ マナブ）					
	担当教員名（英語）	Wada Manabu					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	芸術棟-214					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	可能時間は、月曜日4～5限目ですが、事前にメールによる連絡をください。						
他の担当教員							
キーワード							
学位授与方針との関係	この授業は、教育学研究科・教職実践専攻（教職大学院）の「専門分野の基礎的な知識」（専門性に基づいた問題解決能力）の「4．学校現場等での実習で得られる実践知と講義等で得られる理論知を融合させて、教育課題の解決に資するための専門性に基づいた問題解決能力を修得している」の到達に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	図画工作科・美術科の教育現場の教員が直面する現代の課題として、幼稚園と小学校、小学校と中学校との各連携における課題と対策、学習指導要領の領域 A：表現に該当する絵・絵画の指導の仕方、B：鑑賞の授業計画、3つの点について現場での対応の仕方を身につけることができる。なお、本科目は小学校・中学校・美術、高等学校美術の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	授業の目的であげた3つの課題について受講者なりの意見を持ち教育現場へと活用するうえでの見通しを立て、知識と技能を生かすことができる。						
授業の概要	本授業は、15回を3つの課題点を基に各4～5回づつサブテーマに分け、毎回、講義と課題を受講者が意見交換をしながらレポートを作成していく。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義・ディスカッション						
授業時間外の学習/予習・復習	毎回の課題について教育現場に関連する内容を調べてくる。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	図画工作・美術教育の課題・問題点における3つの点 幼小連携・描画の指導・鑑賞授業の計画について			図工・美術科の自身の記憶に残るエピソードを確認してくる。			
2	幼小連携教育における課題・困難について 多様化する園の独自性の影響について講義とディスカッションを行う。			幼稚園と小学校の連携について課題や困難な点を考えてくる。			
3	幼小連携教育における課題・困難について 教育課程の接続により生じる問題について講義とディスカッションを行う。			幼稚園と小学校の連携について教育課程の接続の課題や困難な点を考えてくる。			
4	小中連携教育における課題・困難について 子どもの看取り方の違いにより生じる問題について講義とディスカッションを行う。			小学校と中学校の連携について子どもの看取り方についての違いについて考えてくる。			
5	小中連携教育における課題・困難について 学習の仕方や環境の違いについて生じる問題につ			小学校と中学校の連携について学習の仕方や環境の違いについて考えてくる。			

5	いて講義とディスカッションを行う。				
6	絵の描き方における課題・困難について 風景画の遠近感と奥行きについて講義とディスカッションを行う。	絵の描き方を指導するうえでの課題・困難な点について考えてくる。			
7	絵の描き方における課題・困難について 人物画の表情と骨格について講義とディスカッションを行う。	人物画を描くうえでの課題・困難な点について考えてくる。			
8	絵の描き方における課題・困難について 想像画のイメージを膨らませる活動について講義とディスカッションを行う。	想像画を描くうえでの課題・困難な点について考えてくる。			
9	絵の描き方における課題・困難について ・生活画のテーマのつくり方について講義とディスカッションを行う。	生活画を描くうえでの課題・困難な点について考えてくる。			
10	鑑賞の授業計画における課題・困難について 対話型鑑賞とファシリテーターの役割について講義とディスカッションを行う。	鑑賞の授業を行ううえでの課題・困難な点について考えてくる。			
11	鑑賞の授業計画における課題・困難について 美術批評教育とワークシートの役割について講義とディスカッションを行う。	鑑賞教育においてワークシート等の副教材を用いるうえでの課題・困難な点について考えてくる。			
12	鑑賞の授業計画における課題・困難について 問題解決型の方法について講義とディスカッションを行う。	鑑賞教育において問題解決学習をどう用いるかについて考えてくる。			
13	鑑賞の授業計画における課題・困難について 経験型の方法について講義とディスカッションを行う。	鑑賞教育における経験の性質について考えてくる。			
14	まとめ 全体を総括するレポートを作成する。	授業全体のまとめについて振り返りを行ってくる。			
15					
16					
17					
18					
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点		
	平常点	50%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現
	課題・レポート	50%			思考・判断
評価の基準（具体的に）					
<p>関心・意欲 講義内での積極的な発言の他、他の履修者の意見を理解することができ、自身の意見へと活用する姿勢を持つことができることが期待される。</p> <p>思考・判断 毎回の授業時のテーマについての理解を深め、問題意識を持って課題を提起することができることが期待される。</p> <p>技能・表現 美術教育の先行研究の方法論について理解することができ、テーマに適した研究方法を選ぶことができることが期待される。</p> <p>知識・理解 美術教育の先行研究に関する知識について理解することができ、それを基にテーマを広げることが期待される。</p>					
履修における留意点					
教科書 / 教材					
参考文献					
コースリザーブ図書					

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC11
授業科目名	体育・保健体育科教育の実践と課題			担当教員名	清水 将		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Health and Physical Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	水	3	FC11			
	【凡例】 : 当該科目 : 同時に履修すべき科目(セット科目)						
主な対象学生	教育学研究科 修士課程 授業力開発プログラム 1,2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名(カナ)	清水 将(シミズ ショウ)					
	担当教員名(英語)	Sho SHIMIZU					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部1号館-E505					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧: <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/743_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/743_ja.html</a> researchmap: <a href="https://researchmap.jp/smzsho">https://researchmap.jp/smzsho</a>					
	個人サイト						
	相談可能時間	授業終了後もしくは昼休み					
他の担当教員	清水 茂幸						
キーワード	体育、保健、授業づくり、研究						
学位授与方針との関係	この科目は、「2.(専門分野の応用的・実践的な知識・技能)教育実践の現代的諸課題に応えうる高度な専門的知識と実践的指導力を修得している。」の達成に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				25%	25%	25%	25%
授業の目的	<p>体育・保健体育科の授業をデザインする上で、構想の基本となる単元構成を検討し、教材開発・授業づくりを行うことを重視する。単元構造図を作成して学校現場の授業実践においてその成果を検証・省察し、反省的実践家としての資質向上を図る。</p> <p>なお、本科目は(中・高:保健体育)の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力」を養う。</p>						
到達目標	小・中・高等学校の体育・保健体育の授業において、体育の学力である運動・技能、態度、知識、思考・判断を身に付け、知識基盤社会における汎用的能力を形成するための単元をデザインできる教科指導力を育成するために、単元構造図や学習指導案を適切に作成し、指導と評価の一体化を理解することができる。						
授業の概要	授業は、体育科教育の今日的な課題を検討しながら、学卒院生においては可能な範囲で配置校における実際に授業づくりをおこなう。現職院生については、その指導をおこないながらこれまでの実践をふり振り返り、実践の理論化をおこなう。課題解決の方策としてのアクションリサーチ(介入研究)の手法を学びながら、学生自身がアクティブラーニングできるように授業を構成する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	演習形式により、担当は清水茂幸・清水将のふたりによるチームティーチングでおこなう。授業は、チームティーチングを原則とするが、一部を分担して展開する。演習では、少人数授業によるディスカッション・コロキウム形式で進める。先進的な実践の検討、経験・実践した授業の省察、模擬授業を行う。						
授業時間外の学習/予習・復習	可能な限りフィールドワークとして近隣の学校の授業参観も含めて実施する。体育・保健体育の授業指導ができる服装・用具を準備すること。						
詳細計画(各回または週の具体的な授業内容、目標など)							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	導入			初等・中等教育における教育課程上の体育・保健体育の位置づけ			
2	演習			体育科教育学における研究の動向			
3	演習			授業研究におけるデザインと研究倫理			
4	演習			体育の学力論と一般的学力			
5	演習			体育授業の指導と評価の一体化、観点別評価			
6	授業づくりの研究			単元の構造			
7	授業づくりの研究			教科内容の習得と活用を図る授業をデザイン			

8	授業づくりの研究	教材開発の理論				
9	授業づくりの研究	教授方略・学習形態				
10	授業研究法	年間計画・単元計画の検討				
11	授業研究法	単元計画に基づく時間計画の検討				
12	授業研究法	組織的観察法				
13	授業研究法	形成的授業評価とその解釈				
14	授業研究法	教材・教具・学習の場				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	単元構造図	25%				
	学習指導案	25%				
	授業検討会における態度	25%				
	授業におけるプレゼンテーション	25%				
評価の基準（具体的に）						
<p>単元構造図、学習指導案を適切に作成・準備し、授業をおこない、ふり返りと改善策の検討をおこない、その成果をプレゼンテーションできること。</p> <p>以上の取り組みについて、4観点で評価する。</p> <p>優：～のいずれにも優れている、良：の観点が優れている、可：の観点が優れている</p> <p>学習記録については、実践研究やアクションリサーチに参加し、授業研究の課題について解決方法を論理的に説明できる能力で評価する。</p> <p>優：授業の改善方法を、最新の研究による知見を用いて解決方法を提示できる</p> <p>良：授業の改善方法を提示できる</p> <p>可：授業の課題を提示することができる。</p>						
履修における留意点						
教科書/教材	高橋健夫他編著、新版体育科教育学入門、大修館書店、2010年 岩田靖、体育の教材を創る、大修館書店、2012年					
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC12
授業科目名	家庭科教育の実践と課題			担当教員名	川村 めぐみ		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Home Economics Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	2	FC12			
主な対象学生	教育学研究科 授業力開発プログラム マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	川村 めぐみ（かみめぐみ）					
	担当教員名（英語）	KAWAMURA Megumi					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	314研究室					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	水曜日：木曜日 12:40～13:00（事前にメールで時間の確認・調整をお願い致します。）						
他の担当教員							
キーワード							
学位授与方針との関係	この授業は教育学研究科「学位授与の方針」内の以下の項目達成に寄与している。 専門分野の基礎的な知識 専門分野の応用的・実践的な知識・技能 高度な実践的指導力の基盤となる能力 専門性に基づいた問題解決力			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				30%	30%	20%	20%
授業の目的	家庭科教育における実践課題を設定し、実証研究するための方法論を身につけることを本授業の目的とする。 なお、本科目は（専修免許：小・中（家庭）・高（家庭））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	先述のとおり、本授業では家庭科教育における実践課題を立て、実証研究するための方法論を身につけることをねらいとしている。そのため以下の事柄を到達目標に設定する。 ・家庭科教育の目標(ねらい)・方法・内容を理解し、実践課題との関係性について分析できる。 ・自ら立てた課題に基づく家庭科の授業を構想し、教材・授業研究等の指導方法が工夫できる。 ・実践課題について実証的検証を行い、新たな知見を導き出すことができる。						
授業の概要	この授業では、大学院生が課題化した実践課題について、家庭科教育から児童・生徒の成長に対し寄与できることが何かを追究する。また、児童・生徒の生活実態や生活課題に根ざした教材の開発や学習指導の在り方を探究するため、指導計画・学習指導案・授業実践事例を分析する。授業分析の際には、受講者数に応じて(模擬)授業を実施する等、実証的な方法論を用いて家庭科の学習指導場面上的課題について検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義・演習						
授業時間外の学習/予習・復習	各種レポート及び学習指導案の作成等						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	・オリエンテーション ・小学校・中学校・高等学校の教育課程における家庭科の位置づけ			講義全体の枠組みを理解する。 家庭科教育の意義と内容の確認			
2	家庭科教育における理論(能力目標関連等)文献購読			文献理解のためのレジユメの作成			
3	家庭科教育における理論(カリキュラム関連等)文献購読			文献理解のためのレジユメの作成			
4	家庭科教育における実践課題と指導計画に関する文献購読			文献理解のためのレジユメの作成			
5	家庭科教育における実践課題と指導計画に関する			文献理解のためのレジユメの作成			

5	る文献購読					
6	家庭科教育における実践上の課題と意義	4回の文献購読を通して、家庭科教育の実践上の課題を整理				
7	諸外国における家庭科のカリキュラムの検討（文献調査）	カリキュラム理解のためのレジユメの作成				
8	家庭科教育の授業構想・教材開発（質疑）（家庭科教育内容についてはA Cから受講者が決める）	家庭科の授業を構想し、教材開発も含め発表・質疑のための準備				
9	家庭科教育の授業構想・教材開発（質疑）（家庭科教育内容についてはA Cから受講者が決める）	家庭科の授業を構想し、教材開発も含め発表・質疑のための準備				
10	開発授業の実践（模擬授業・現場実習）	授業実践のための準備				
11	授業実践の分析と振り返り	授業構想の振り返り、再考のためのレジユメの整理				
12	授業実践の分析と振り返り（質疑）	授業構想の振り返り、再考のためのレジユメの整理				
13	家庭科教育における育みたい資質・能力と評価の検討	家庭科教育に関する評価について、文献購読を行い、整理する。 実践授業における評価基準の作成				
14	実践報告のまとめ、小学校・中学校・高等学校の教育課程における家庭科の課題と展望	ここまでの総括				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	授業時のディスカッション・コメント	50%	○		○	
	学習指導案の分析・作成	20%			○	
	(模擬)授業実践	20%	○			○
期末課題	10%		○			
評価の基準（具体的に）						
以下の事柄をもとに総合的に判断する。						
(1)授業時間内のディスカッション・コメント（提出は授業時間内）						
・設定された問いを自分なりに考え、発言しているか。						
・ショートコメントに書かれた内容が的確に課題を捉えて論じられているか。						
(2)学習指導案の分析・提案						
・各学校段階に応じた家庭科の教育課程を理解し、教科の特徴を捉えることができているか。						
・各学校段階に応じた家庭科の教育内容を踏まえて先行実践がよく分析されているか。						
・自ら設定した研究課題に対応する指導案が作成されているか。						
・指導案の内容がよく吟味されているか。						
(3)(模擬)授業実践						
・自ら設定した課題に対応する授業方法が構想されているか。						
・全体の指導計画を意識した授業の流れが捉えられているか。						
・設定課題に対する省察において、ポイントが十分に押さえられているか。						
(4)期末課題レポート						
・家庭科の特徴をふまえ、設定された問いに対し、考察が深められているか。						
・自らの実践課題について具体的な例を用いながら、長所・改善点が述べられているか。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC13
授業科目名	技術科教育の実践と課題			担当教員名	宮川 洋一		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Technical Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）
	1	水	3	FC13			
主な対象学生	教育学研究科 学校マネジメント力開発プログラム 1,2 / 教育学研究科 授業力開発プログラム 1,2 / 教育学研究科 子ども支援力開発プログラム 1,2 / 教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1,2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	宮川 洋一（ミヤガワヨイチ）					
	担当教員名（英語）	Yoichi Miyagawa					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-116					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/674_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/rs3y					
	個人サイト						
相談可能時間	水曜日15:00-16:00						
他の担当教員							
キーワード	学習指導論、教育評価論、教育統計						
学位授与方針との関係	この科目は、教育学研究科における学位授与の方針、(高度な実践的指導力の基盤となる能力)「3. 学校経営, 学習指導, 子ども理解, 及び特別支援教育等に関する高度な実践的指導力の基盤となる能力を修得している。」の達成に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
			30%	30%	30%	10%	
授業の目的	<p>題材（製作題材の選定、教材の選択等を含む）を開発し、実践・評価（質的・量的検討）を通して、教育現場における実践・実証型の教育研究方法を身につける、各自の授業実践（指導法）における課題を把握して改善する、この二点をもって技術科の授業力向上を図る。</p> <p>なお、本科目は中学校・技術の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場における実践・実証型の教育研究・リフレクションの方法を説明できる</li> <li>・事例から、指導の効果について考察できる</li> <li>・質問紙法、教育統計に関する基本的な事柄を理解し、関連論文の意味理解ができる</li> <li>・各自の授業実践（指導法）における課題を把握して改善しようとしている</li> </ul>						
授業の概要	本講義では、中学校技術・家庭科技術分野における内容A・B・C・Dから二つ選択して、問題解決的な学習を位置づけた題材開発（題材展開案及び評価規準表を作成）を行い実践する。その上で、受講者自身が今後の課題を把握するため、教育効果を質的（事例）と量的（質問紙）方法により検証する。						
実務経験の有無と授業内容への反映	本教科は担当者の実務経験を踏まえつつ、理論と実践の往還となるよう留意している。						
授業の形式	講義＋演習						
授業時間外の学習/予習・復習	題材展開案等の作成が必要となる						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション, 教育課程上（法を含む）における技術科教育の位置づけ・内容の確認			テキスト「技術科教育概論」			
2	学校のグランドデザイン, 全校研究と技術科教育実践研究との関連			テキスト「技術科教育概論」			
3	技術科の授業における実践事例の検討：質的評価（リフレクション）の方法論1			テキスト「技術科教育概論」			
4	技術科の授業における実践事例の検討：質的評価（リフレクション）の方法論2			テキスト「技術科教育概論」			
5	技術科の授業における学習者の実態把握の方法【質問紙法】：量的評価の方法論			テキスト「ユーザのための教育・心理統計と実験計画法」			



6	技術科の授業における学習者の実態把握の方法 [平均値の比較分析法][多変量解析]:量的 評価の方法論	テキスト「ユーザのための教育・心理統 計と実験計画法」	
7	技術科の授業における学習者の実態把握の方法 [教育実践論文の検討]:量的評価の方法論	テキスト「ユーザのための教育・心理統 計と実験計画法」	
8	実践題材 (内容D)の教材研究1 計測と制御によるプログラムを踏まえた教材研 究	テキスト「技術科教育概論」	実践実践題材(受講者が内容A - Dから決める)の計画立案, 研究授業の場面の選定
9	実践題材 (内容D)の教材研究2 計測と制御によるプログラムを踏まえた教材研 究	テキスト「技術科教育概論」	
10	実践題材 (内容D)の教材研究3 計測と制御によるプログラムを踏まえた教材研 究	テキスト「技術科教育概論」	
11	実践題材 (受講者が内容A - Dから決める) の計画[学習指導案]検討1	テキスト「技術科教育概論」	
12	実践題材 (受講者が内容A - Dから決める) の計画[学習指導案]検討2	テキスト「技術科教育概論」	
13	実践題材 (受講者が内容A - Dから決める) の計画[学習指導案]検討3	テキスト「技術科教育概論」	
14	本講義のまとめ[技術科教育の教育的価値とそ の位置づけ,今後の実践課題の把握] 定期試験	これまでの総復習	
15			
16			
17			
18			
成績評価の 方法と基準	評価方法	割合	評価観点
	平常点	30%	関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	課題	40%	
	期末テスト	30%	
評価の基準(具体的に)			
以下の観点を中心として評価する。			
平常点			
・ 題材作成等自ら進んで取り組もうとしている。			
・ 講義内容に関する討論の場面において,自分の考えを積極的に述べようとしている。			
課題			
・ 生徒主体となる題材展開が作成できる。			
期末テスト			
・ 各回の到達目標を評価基準とした内容の説明ができる。			
履修における留意点			
教科書/教材	田中敏・山際勇一郎、ユーザのための教育・心理統計と実験計画法、教育出版、1992年 日本産業技術教育学会技術教育分科会、技術科教育概論、九州大学出版会、2018年		
参考文献	宮川洋一・森山潤、学習者の思考力を高めるプログラミング教育の学習支援、風間書房、2016年		
コースリザーブ図書			

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FC15
授業科目名	生活科・総合学習の実践と課題			担当教員名	田代 高章		
授業科目名：英語	Practices and Challenges in Living Environment Studies and Integrated Studies						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	月	2	FC15			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	学校現場での実践研究が入る場合もあり、午前中は、他の履修科目が入っていないことが望ましい。						
担当教員情報	氏名（カナ）	田代 高章（タカキ タカアキ）					
	担当教員名（英語）	Takaaki Tashiro					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-517					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/396_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/36510417yumanite					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜の12:10-12:50を基本とする。その他でも空いていれば対応可能。						
他の担当教員	佐藤 進						
キーワード	総合的な学習の時間、カリキュラム、歴史・文化・自然・産業他、地域、地域関連科目、PBL						
学位授与方針との関係	ディプロマポリシーの1・2・3に対応。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	30%
授業の目的	「生活科」「総合的な学習の時間」について理解し、実践的にカリキュラムの全体計画を構想するための基礎力と実践的な指導力を形成する。 なお、本科目は（専修免許：小学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学習指導力を修得するため」の科目に当たり、「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量」を養う。						
到達目標	「生活科」「総合的な学習の時間」の趣旨・目的・内容・学習活動の方法、学習指導要領改定のポイント、具体的な実践の構想について理解できていること。具体的な実践に向けて、子どもの実態、地域や学校の実態を踏まえたカリキュラムを開発できること。具体的な実践の場面で、カリキュラム改善のための一定の観点をもち、子どもに応じた臨機応変な指導改善の見通しが持てること。						
授業の概要	前半数回は、講義・レポートを中心に、生活科・総合的な学習の時間について、改訂学習指導要領を参考にしつつ、その背景、意義について理解すること、実践的な課題と改善の見通しを考えることに重点を置く。後半は、各自でカリキュラム開発を行うこと、可能であれば市内学校現場を訪問し、生活科・総合的な学習のカリキュラムの実態と改善のための観点を考える場を設ける。全体を通して、実践に生きる生活科・総合的な学習のカリキュラム開発の成果をまとめ、改訂学習指導要領の趣旨と内容も踏まえながら、カリキュラムを開発する際の課題についても整理し、各自が構想したカリキュラムデザインの発表会を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	全14回のうち、講義および演習形式。可能な限り学校訪問を含む実践活動を予定する。						
授業時間外の学習/予習・復習	探究活動においては、ICT活用による情報収集、現地調査・インタビュー、学校訪問等、場合によっては、正規の授業時間外の学習活動も必要となる。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習		備考	
1	初回オリエンテーション 講義の趣旨・内容等についての説明。			あらかじめ、生活科と総合的な学習の時間について、学習指導要領を読んでおくことが望ましい。			
2	生活科・「総合的な学習の時間」についての基礎理解（1）			生活科の成立の背景、目標、内容、方法、評価についてレポート発表の準備にあてる。			
3	生活科・「総合的な学習の時間」についての基礎理解（2）			総合的な学習の時間の成立の背景、目標、内容、方法、評価についてレポート発表の準備にあてる。			
4	生活科・「総合的な学習の時間」についての基礎理解（3）			生活科、総合的な学習の時間についての勤務校（配属校）の全体計画を準備する。			

5	生活科・「総合的な学習の時間」についての基礎理解（４）	生活科、総合的な学習の時間についての勤務校（配属校）の全体計画を準備する。				
6	生活科・「総合的な学習の時間」についての基礎理解（まとめ）	前半の講義の成果と課題を生活科・総合的な学習の理解を踏まえて、その特質をまとめる。				
7	生活科・「総合的な学習の時間」の実践（１）	近隣校の生活科・総合的な学習の時間についての授業実践について事前学習（指導案）を行い、改善策の見通しを考える。				
8	生活科・「総合的な学習の時間」の実践（２）	全体発表会をうけて、事後シートに成果と改善課題を整理する。				
9	生活科・「総合的な学習の時間」の実践（３）	近隣校の生活科・総合的な学習の時間についての授業実践について事前学習（指導案）を行い、改善策の見通しを考える。				
10	生活科・「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発：全体計画・年間指導計画（１）	全体発表会をうけて、事後シートに成果と改善課題を整理する。				
11	生活科・「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発：全体計画・年間指導計画（２）	生活科・総合的な学習の時間について、全体計画を作成する。				
12	生活科・「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発：全体計画・年間指導計画（発表会・協議１）	生活科・総合的な学習の時間について、全体計画を作成する。				
13	生活科・「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発：全体計画・年間指導計画（発表会・協議２）	全体発表会の準備をする。				
14	全体のまとめ	全体発表会での指導助言を踏まえ、より実践的に生かせるカリキュラム開発のためのチェックリストを完成させる。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	30%				
	iカード	0%				
	小テスト	0%				
	レポート課題	40%				
	成果発表資料	30%				
評価の基準（具体的に）						
出席と受講時の状況についても成績判定の素材とする（30％）。レポート作成や受講生間での意見交換・質疑応答も評価対象とする。学校訪問を行った場合には、その回毎に観察記録の提出も求める。最終発表会とあわせて70％で評価対象とする。全体の100％のうち、60％以上であれば、合格とし、内容に応じて、可、良、優、秀で判定する。						
履修における留意点	正規の時間外での活動もあり得るので留意すること。					
教科書 / 教材	文部科学省、小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、東洋館出版社、2018年、978449103468 文部科学省、小学校学習指導要領解説 生活編、東洋館出版社、2018年、978449103464 文部科学省、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、東山書房、2018年 文部科学省、高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編、学校図書、2019年 田代高章・阿部昇、「生きる力」を育む総合的な学習の時間、福村出版、2021年、9784571101922					
参考文献	文部科学省、今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編、アイフィス、2021年、978490800735 文部科学省、今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)、アイフィス、2022年、4908007373					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FD02
授業科目名	発達援助の理論と実践			担当教員名	青山 慶		
授業科目名：英語	Theory and Practice in Developmental Support						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	2	FD02			
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	青山 慶（アヤマケイ）					
	担当教員名（英語）	Kei Aoyama					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-525					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/946_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/aoyamakei					
	個人サイト						
	相談可能時間	金曜 2 限（ただし事前にメール等でアポイントをとること）					
他の担当教員							
キーワード	多重時間スケール、発達システム、認知発達、自己意識の発達、社会性の発達、言語の発達						
学位授与方針との関係	子どもの心理発達臨床的問題の理解と支援方法の学習	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	50%
授業の目的	乳幼児期・児童期・青年期の心理的諸問題を精神発達の観点から理論的、実践的に理解し、適切な心理的査定、および外部機関との連携を学ぶことを目標とする。 なお、本科目は専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」を養う。						
到達目標	1. 最新の知見を踏まえた発達心理学の理論について学ぶ。 2. 子育てや学校教育における援助について、具体的な事例を学習する。 3. 具体的な事例を通して支援や援助について学習する。						
授業の概要	乳幼児期から青年期までの認知、自己意識、社会性、言語などの精神発達を理論的に検討すると共に、愛着、虐待、発達障がいなど各分野に関わる心理的問題についての理解を深める。また、実際の具体的な事例を取り上げ、子どもや家庭、学校における発達の支援や学習支援、および外部機関との連携について検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義、ビデオ視聴、事例検討、グループ討議						
授業時間外の学習/予習・復習	各回のテーマに関連する文献や資料を調べておくこと。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	イントロダクション：事例理解をする際に、発達の視点を持つことの重要性を発達理論、発達査定などを概観することによって学ぶ。			復習：学んだことをまとめておくこと			
2	精神発達と心理的諸問題：乳幼児期から青年期までの心理的諸問題について発達の視点からの援助の重要性を学ぶ。			予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと			
3	社会性の発達 1 人間関係：乳幼児期の人間関係の発達過程を、愛着の形成と愛着障がいの実態と治療、その後の仲間関係の成立などを通して学ぶ。			予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと			
4	社会性の発達 2 ソーシャルスキル：児童期から青年期の社会性の発達を、自制心、他者理解、規範意識などの発達過程を通して学ぶ。			予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと			
5	虐待と発達障がい：社会性の不適応の生得的、環境的要因の問題を、発達障がいなどが誘因と			予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと			

5	なる虐待の事例を通して学ぶ。	復習：学んだことをまとめておくこと				
6	発達障がいと二次障がい：発達障がいの二次障害の問題を学齢期のトラウマ経験に焦点を当てて学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
7	言語の発達1 日常言語：乳幼児期の言語発達を語彙、統語、談話など発達の側面から学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
8	言語の発達2 読み書き：学齢期以後のリテラシーやコミュニケーション能力の発達を読み書き教育との関係で学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
9	認知の発達：言語的思考、メタ認知などの発達過程をピアジェやヴィゴツキーの発達理論などを通して学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
10	認知発達と教育：学習指導や教科教育において経験的知識やメタ認知などの認知発達の視点を持つことの重要性について学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
11	学習障がいとユニバーサルデザイン授業：学習指導や教科教育において経験的知識やメタ認知などの認知発達の視点を持つことの重要性について学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
12	自我の発達と人間関係：乳幼児期の自己概念の発達について自我意識の発達や遊びの発達などを通して学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
13	自我の発達と遊び：児童期から青年期の自己概念の発達を、自尊感情、自我同一性、就労などの観点から学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
14	心理的援助と外部機関との連携：心理的援助を行う際に、家庭と学校の連携だけでなく、福祉、医療などの外部機関との連携が重要であることを学ぶ。	予習：配布資料を読みわからない用語等を調べておくこと 復習：学んだことをまとめておくこと				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	レスポンス	50%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	授業内課題	20%				
	期末レポート	30%				
評価の基準（具体的に）						
レスポンス（アイアシスタントの学習記録）の記載内容を基本として、講義中に記載、提出を求める学習プリントの内容、および講義の最後に自己の成長を自覚するための振り返りを総合的に評価する。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FD03
授業科目名	生徒指導・教育相談の理論と実践			担当教員名	山本 奨		
授業科目名：英語	Theory and Practice in Student Guidance and Educational Counseling						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	月	4	FD03			
主な対象学生	教育学研究科 2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻の科目である。						
担当教員情報	氏名（カナ）	山本 奨（ヤマモト ススム）					
	担当教員名（英語）	Yamamoto, Susumu					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-522					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/675_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/6543					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜5時限（要予約）						
他の担当教員							
キーワード	いじめ、不登校、Bullying、school non-attendance						
学位授与方針との関係	本科目は、教育学研究科の学位授与方針の「専門分野の基礎的な知識」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」に寄与するものである。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	30%	40%
授業の目的	生徒指導・教育相談の意義の機能の理解の下、学習者自身が有効にそれを遂行できる力を獲得すると共に、援助資源を組織化し計画的にそれを配置するための視点と具体的な方法を獲得することを目的とする。なお、本科目は（専修免許（小学校、中学校、高等学校））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」を養う。						
到達目標	生徒指導・教育相談の意義の機能の理解の下、学習者自身が有効にそれを遂行できる力を獲得すると共に、援助資源を組織化し計画的にそれを配置するための視点と具体的な方法を獲得する。						
授業の概要	生徒指導の定義をふまえて学校教育における機能を明確にしなが、学校心理学をふまえて、開発的な介入、予防的な介入、問題解決的な介入など、児童生徒に対する援助を構造化する方策について学ぶ。その過程で教育相談の意義と特質を学ぶとともに、キャリア教育の意義と具体的な展開方法について学ぶ。その上で、学校においてよく機能する生徒指導・教育相談体制を構築するための要点を、教師支援の観点を含めて習得する。履修者の臨床・研究上のスキルによっては関係論文の講読を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義形式と演習による。						
授業時間外の学習/予習・復習	予定していない。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	生徒指導の定義をふまえて学校教育における機能や領域を明確にし、生徒指導を学校心理学の立場から構造的に把握する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
2	不適応や問題行動を、誤った対処行動やストレス反応の視点から整理することを通して、児童生徒を理解するための観点について検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
3	予防・早期発見に必要な視点と、教育目標の実現を踏まえた開発的生徒指導について検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
4	不登校やいじめ等の事例を通して、組織的な対応の必要性とその効果について、リスク・クライシスマネジメントの視点を含め検討する。			関係書籍・論文を基に学習すること			
5	校内の計画的で組織的な生徒指導体制の在り方について、学級経営との関わりを明確にしなが			関係書籍・論文を基に学習すること			

5	ら明らかにする。				
6	チーム援助の視点から、校内の各職種の特質を整理するとともに、校外との効果的な連携の在り方について検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
7	生徒指導との関連を明確にしながら、教育相談の意義と担当者の役割を検討する。併せて技法の理解を通して、その意義と機能について考える。	関係書籍・論文を基に学習すること			
8	教育相談体制の在り方について、学級担任、生徒指導、校内専門職、校外専門機関との連携の効果を踏まえて考察する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
9	生徒指導・教育相談との関連を踏まえ、キャリア教育の意義と児童生徒のニーズに応えるキャリア教育・カウンセリングの具体的な展開を理解する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
10	スーパーやホランドの理論を踏まえ、キャリア発達や職業観・勤労観の育成等の要点を抽出し、系統的・計画的指導の在り方について検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
11	不安など情緒的混乱から生じた不登校事例の検討を通して、教育相談及び他機関との連携について考察する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
12	無気力及び遊び非行による不登校事例の検討を通して、チーム援助及び問題行動への対応について考察する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
13	いじめられていることを訴える事例の検討を通して、教育相談技法や個人情報扱い、関係機関との行動連携について考察する。重大事態となったいじめの事例の検討を通して、生徒指導の組織やその機能、関係法令の適用、危機管理について考察する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
14	学校経営の視点と学校教育目標の実現の観点から、生徒指導・教育相談・キャリア教育の関連について検討し、「チーム」の在り方について考える。	関係書籍・論文を基に学習すること			
15					
16					
17					
18					
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点		
	平常点	30%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現
	iカード	0%	思考・判断		
	小テスト	0%			
	課題	30%			
	期末テスト	40%			
評価の基準（具体的に）					
以下による総合評価。全回ショートレポートを課す（30％）。理解を深めるために授業の中で討論を行うのでこれに積極的に参加すること（30％）。定期試験（レポートとする場合がある、40％）。					
履修における留意点					
教科書 / 教材					
参考文献	山本奨ら、いじめ問題解決ハンドブック:教師とカウンセラーの実践を支える学校臨床心理学の発想、金子書房、2018年				
コースリザーブ図書					

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FD04
授業科目名	学校カウンセリングの技法			担当教員名	山本 奨		
授業科目名：英語	School Counseling Techniques						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	月	3	FD04			
主な対象学生	教育学研究科 1,2						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻の科目です。授業では、クライアントとして個人の内的経験を語っていただく場面があります。そのため授業は「クローズの会」と同様のルールの下で行われます。履修者は授業中に語られたことについて秘密の保持を厳守してください。						
担当教員情報	氏名（カナ）	山本 奨（ヤマモト ススム）					
	担当教員名（英語）	Yamamoto, Susumu					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-522					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/675_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/6543					
	個人サイト						
相談可能時間	月曜5時限（要予約）						
他の担当教員							
キーワード	カウンセリング、臨床心理学、counseling、Clinical psychology						
学位授与方針との関係	本科目は教育学研究科の学位授与の方針の「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「専門性に基づいた問題解決能力」に寄与するものである。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	10%	20%
授業の目的	児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面等の諸問題について、学校という場にふさわしい視点で対処するための、カウンセリング諸技法を獲得し、それを活用できる技能を獲得することを目的とする。なお、本科目は（専修免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校））の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量」を養う。						
到達目標	児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面等の諸問題について、学校という場にふさわしい視点で対処するための、カウンセリング諸技法を獲得し、それを活用できる。特に現職院生については、学卒院生とのグループワークや意見交換を通して、学校の教育相談力向上の観点から適切なコンサルテーションを実現できる実践力を獲得するとともに、学校教育目標実現のために教育相談を活用する視点を獲得する。学卒院生については、現職院生との学修を通して、教育目標の達成と教育相談の機能との関連を理解し実践的な介入方法を獲得する。						
授業の概要	学校カウンセリングの技法について、その理論的背景を学んだ上で、まず要約を中心とした基本的傾聴技法について、質問の方法と感情の扱い方と併せて学習し習得する。その上で、直面化・明確化・解釈など積極的な介入技法について学習し習得する。また、個人が抱える中核的なテーマへの焦点化や周囲の重要な人物との関係の理解など、短期だけでなく長期に渡る児童生徒の心的変容過程を捉え、ケース全体をマネジメントする視点を獲得する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	主に演習形式で行うとともに、講義形式で解説を加える。						
授業時間外の学習/予習・復習	予定していない。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	学校場面におけるカウンセリングの意義と目標を踏まえた諸技法について概観するとともに、支援者側に求められる態度と実習の要点を学ぶ。講義			関係書籍・論文を基に学習すること			
2	授業担当者が行うファシリテーター役をモデルに、その要点をディスカッションにより整理した上で、グループワークの進行を体験的に学ぶ。			関係書籍・論文を基に学習すること			
3	短いグループワークを行い、授業担当者が中心となりシェアリングを進め、その要点を整理した上で、その進行とテーマの扱い方を体験的に			関係書籍・論文を基に学習すること			



3	学ぶ。				
4	授業担当者が「要約」の技法をモデルとして示し、ディスカッションにより要点を整理した上で、基本的傾聴技法を体験的に学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること			
5	事前に受講者2名がカウンセラー・リーとなり12分間の現実の（ロールでなく）対話を行う。授業では録画と逐語録を基にその展開を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
6	受講者が毎時交替で12分間のカウンセリングの録画と逐語録を基に、主に励ましと言い換えに焦点をあて、その展開を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
7	受講者が毎時交替で12分間のカウンセリングの録画と逐語録を基に、主に感情の反映と意味の反映に焦点をあて、その展開を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
8	受講者が毎時交替で12分間のカウンセリングの録画と逐語録を基に、主に質問の用い方に焦点をあて、その展開を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
9	授業担当者が「直面化」等の技法をモデルとして示し、ディスカッションにより要点を整理した上で、いわゆる積極的技法を体験的に学ぶ。	関係書籍・論文を基に学習すること			
10	受講者が毎時交替で12分間のカウンセリングの録画と逐語録を基に、主に直面化等の積極的技法に焦点をあて、その展開を検討する。	関係書籍・論文を基に学習すること			
11	中長期に渡り継続される学校カウンセリング事例におけるテーマの扱い方とその展開、またケースをマネジメントする方略について学ぶ。講義。	関係書籍・論文を基に学習すること			
12	受講者が提供する個別支援事例の公開コンサルテーションを行いその要点を整理した上で、この事例を用いて、小グループで模擬実習を行う。	関係書籍・論文を基に学習すること			
13	受講者が提供する組織支援事例の公開コンサルテーションを行いその要点を整理した上で、この事例を用いて、小グループで模擬実習を行う。	関係書籍・論文を基に学習すること			
14	事前に受講者2名で実事例によるコンサルテーションを行い、その録画と逐語録を基にその展開を検討する。実習を通して得られた技法について、学校場面での活用の留意点について検討すると共に、介入に関する倫理、情報活用に関する倫理を学ぶ（講義）。	関係書籍・論文を基に学習すること			
15					
16					
17					
18					
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点		
	平常点	40%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現
	iカード	0%			
	小テスト	0%			
	課題	40%			
	期末テスト	20%			
評価の基準（具体的に）					
以下による総合評価。演習を基に、討論を行うのでこれに積極的に参加すること（演習40%、討論40%）。定期試験（レポートとする場合がある、20%）。					
履修における留意点					
教科書 / 教材					
参考文献	クララ・ヒル、ヘルピング・スキル：探求・洞察・行動のためのこころの援助法、金子書房、2014年				
コースリザーブ図書					

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FE03
授業科目名	特別支援教育授業論			担当教員名	佐藤 信		
授業科目名：英語	Classroom TheoryLesson Theory in Special Needs Education 1						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	火	2	FE03			
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	佐藤 信（サトウ シン）					
	担当教員名（英語）	SATO Shin					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育学部1号館（A21）-510					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：					
	個人サイト						
相談可能時間	基本的に昼休みに対応します。事前にメールで連絡してください。						
他の担当教員	佐々木 全						
キーワード	知的障害教育、特別支援学校、特別支援教育、インクルーシブ教育						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
授業の目的	主に知的障害教育の現場での教育課程編成や授業づくりに関する知識・技能の習得と活用のための力量形成を目的とする。 なお、本科目は特別支援教育教員免許取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得」するための科目にあたり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	主に知的障害教育における 通常教育における教育課程と知的障害教育課程の関係、 知的障害教育課程の構造及びその理解、 各指導の形態の概念、 指導の形態別の目的及び方法、 授業における指導計画（全体、個別）の作成、 教材研究の方法、 知的障害教育における授業評価の在り方の7点を説明できる。						
授業の概要	主に知的障害教育の現場での授業力及び知的障害教育現場に対する指導力の向上を目的として、知的障害教育の授業づくりに必要な基本的事項について実践事例や研究動向を紹介しながら概説する。併せて、学校及び施設参観をとおして知的障害教育を進めるための実践的な知識と課題解決の方向性について探求する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義形式						
授業時間外の学習/予習・復習	なるべく知的障害教育課程の文献を講読すること。 数時間学校及び施設の参観を予定。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	学習指導要領と教育課程			学習指導要領解説から特別支援教育課程について事前に学習する			
2	知的障害教育支援学校参観			参観に関わる質問等について考えておく			
3	知的障害教育支援学校参観 の振り返り			参観から得られた新たな気付きを書き出し分類しておく			
4	知的障害教育支援学校参観 の振り返り			前時の授業を参考に自分なりの考えをまとめておく			
5	授業案と授業記録			田淵シートについて事前に確認し、質問等を考えておく			
6	授業案と授業記録			田淵シートを使用して参観授業の分析をしてみる			
7	授業案と授業記録			前時の授業を参考に単元構想を作成してみる			
8	知的障害教育における作業学習と進路支援（参			【復習】福祉事業所体験面談会の参観が			

8	観)	ら進路支援に関わる気づきをレポートとしてまとめる	
9	知的障害教育支援学校参観	参観に関わる質問等を考えてまとめておく	
10	知的障害教育支援学校参観の振り返り	参観の振り返りを事前にまとめておく	
11	就労継続支援・生活介護等施設の参観	参観に関わる質問等を考えておく	
12	就労継続支援・生活介護等施設の参観の振り返り	参観から得られた新たな気づきを書き出し分類しておく	
13	就労継続支援・生活介護等施設の参観の振り返り	前時の授業を参考に自分なりの考えをまとめておく	
14	授業のまとめ(知的障害教育における実践力・授業力)	知的障害教育における実践力・授業力について自分の考えをまとめておく	
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	授業での発言	60%				
課題作成	40%			○		

評価の基準(具体的に)

授業での発言は関心・意欲や思考・判断、つまり積極的で実践的思考を重視した発言を評価する。課題作成では、単なる知識の記憶だけでなく、授業で論説した内容の理解を評価する。加えて本科目の目標にかかる内容についての自身が有する見解を論理的に説明できることを評価する。

履修における留意点	
教科書/教材	名古屋恒彦、特別支援教育「領域・教科を合わせた指導」のABC、東洋館出版社 文部科学省、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領、海文堂出版
参考文献	
コースリザーブ図書	

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FE07
授業科目名	特別支援教育における連携			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Coordination for Special Needs Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	4	FE07			
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教育学研究科教育実践専攻において、特別支援学校専修免許状取得のための単位となります。						
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月水昼 メール						
他の担当教員							
キーワード	特別支援教育、通常学級、教職大学院、連携、特別支援教育コーディネータ						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門分野の基礎的な知識」「専門分野の応用的・実践的な知識・技能」「高度な実践的指導力の基盤となる能力」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	25%	25%
授業の目的	特別支援教育における「連携」のあり方のうち、主として特別支援教育コーディネーターの役割に関する事項を理解し、その実践力の基盤としての知識を得る。なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	特別支援教育における「連携」のあり方のうち、主として特別支援教育コーディネーターの役割に関する事項を説明できる。						
授業の概要	特別支援教育における重要なキーワードである「連携」のあり方を、主として特別支援教育コーディネーターの役割に注目して概説する。特別支援教育と地域や関連機関との連携の意義及び現状、地域や関連機関と連携の方途、児童生徒の地域生活・家庭生活への支援の方途、特別支援教育コーディネーターの実務などを実践事例や研究動向を紹介しながら概説する。スクールクラスターなどの連携システムの概要についても触れる。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	講義及びレポートの発表と討論を合わせて行う。						
授業時間外の学習/予習・復習	授業の準備として、実習協力校、教育事務所などにおける参与観察を推奨する（学校公開研究会や専門実習等の機会を活用あるいは兼ねて）						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	オリエンテーション（レポート作成の方法、文献紹介等、課題意識の整理を行う） 特別支援教育における連携の概念			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
2	特別支援教育コーディネーターの位置づけと役割（通常学校）			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
3	特別支援教育コーディネーターの位置づけと役割（特別支援学校）			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
4	地域との連携（通常学校）			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
5	地域との連携（特別支援学校）			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			
6	福祉機関との連携			指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。			

7	医療機関との連携 / 労働機関との連携	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
8	災害時における連携	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
9	児童生徒の地域生活への支援（通常学校）	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
10	校内での連携（支援員、養護教諭等）	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
11	校内での連携（スクールソーシャルワーカー等の専門家）	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
12	連携に資する要領の検討（個別の指導計画の作成要領など）	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
13	特別支今後の特別支援教育コーディネーターに求められる役割（特別支援教育コーディネーターに対するインタビュー）	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
14	特別支今後の特別支援教育コーディネーターに求められる役割の検討	指示内容を予習し、講義内容に関する振り返りをもって復習とする。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	討論及びレポートの内容	60%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	期末テスト	40%	○	○	○	○
評価の基準（具体的に）						
随時のレポートとそれを基にした討論を行う 期末テストとして、レポートを課す。詳細は授業に於いて指示する。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	2	時間割コード	FE08
授業科目名	特別支援心理教育アセスメント			担当教員名	滝吉 美知香		
授業科目名：英語	Psychoeducational Assessment in Special Needs Education						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	水	2	FE08			
主な対象学生	教育学研究科 特別支援教育力開発プログラム 1,2						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件							
担当教員情報	氏名（カナ）	滝吉 美知香（タキヨシカ）					
	担当教員名（英語）	TAKIYOSHI Michika					
	所属	教育学部					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-511					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/744_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/744_ja.html</a> researchmap： <a href="https://researchmap.jp/mtaki">https://researchmap.jp/mtaki</a>					
	個人サイト						
相談可能時間	授業時間の前後、もしくは個別にメール等でご連絡ください。						
他の担当教員							
キーワード							
学位授与方針との関係	この科目は、学校教育実践専攻の「学位授与の方針」（専門分野の応用的・実践的な知識・技能）「教育実践の現代的諸課題に応えうる高度な専門的知識と総合的実践力を修得している」の達成に主に寄与する。			学位授与の方針			
				知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
				25%	35%	15%	25%
授業の目的	特別支援教育の観点から、心理教育アセスメントについての基本的知識や技術を獲得し、アセスメント結果を適切な教育や支援へとつなげる力の育成を目的とする。 なお、本科目は（専修免許：特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量」を養う。						
到達目標	特別支援教育の観点から、心理教育アセスメントについての基本的知識および技術を獲得すること。および、アセスメント結果を適切な教育や支援へとつなげるための具体的な方法を検討できること。						
授業の概要	基本的な個別心理検査の実施をとおして技術を獲得するとともに、検査にかかる理論や解釈等について学習する。また、知能・認知、発達、生活・適応、ことば、読み書き、社会的コミュニケーション、注意・集中、感覚・運動等の各領域における特性をとらえるためのアセスメントについて、具体的な事例に基づいた実践的理解を深める。						
実務経験の有無と授業内容への反映	小児科クリニック、少年院、発達障害者支援センター等における心理職として勤務						
授業の形式	主要な検査について、理論と方法の学習、実施、採点、解釈、支援方法の検討と所見の作成、発表等を行う。また、受講生がこれまでに実際かかわりのあった事例について、心理教育アセスメントの観点からまとめ発表し、ディスカッションを行う。						
授業時間外の学習/予習・復習	特に検査の実施に関しては各自でしっかりと予習し準備をすること。 実施後の採点や解釈、指導案や指導計画の作成については、適宜レポート等の課題を課す。 各自の実践の中から事例を取り上げ検討会資料を作成する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	心理教育アセスメントとは			授業内にて適宜指示する			
2	心理教育アセスメントの方法			授業内にて適宜指示する			
3	個別心理検査の実施			授業内にて適宜指示する			
4	個別心理検査の採点			授業内にて適宜指示する			
5	個別心理検査の解釈			授業内にて適宜指示する			
6	個別心理検査の理論的背景			授業内にて適宜指示する			
7	教育的支援の考案			授業内にて適宜指示する			
8	指導案や指導計画への反映			授業内にて適宜指示する			
9	知能・認知に関するアセスメント			授業内にて適宜指示する			
10	発達に関するアセスメント			授業内にて適宜指示する			

11	生活能力・適応行動に関するアセスメント	授業内にて適宜指示する				
12	ことば・読み書き・視知覚に関するアセスメント	授業内にて適宜指示する				
13	社会的コミュニケーション・注意集中に関するアセスメント	授業内にて適宜指示する				
14	感覚・運動に関するアセスメント	授業内にて適宜指示する				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	発言・発表	50%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	課題	50%	○		○	
評価の基準（具体的に）						
<p>演習形式で行うため、出席を必須とする。出席が8割に満たないものは原則として評価の対象としない。  出欠について特別な事情がある場合には、可能な限り事前に申し出ること。  授業中の発表や発言、ディスカッションへの積極的参加態度を評価する。  授業の中で、実施や発表を行う検査の割り当てを行う。  発表やレポート等、適宜課題を課す。</p>						
履修における留意点						
教科書 / 教材	滝吉美知香, 鈴木恵太, 名古屋恒彦、特別支援教育に生きる心理アセスメントの基礎知識、東洋館出版社、2023年					
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	1	時間割コード	FG02
授業科目名	教育実践リフレクション			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Reflections on Educational Practices 2						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	金	1	FG02			
				【凡例】			
				: 当該科目 : 同時に履修すべき 科目(セット科目)			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻の学生に限る。ただし特別支援教育力開発プログラム履修者は除く。						
担当教員情報	氏名(カナ)	立花 正男(タチバナマサオ)					
	担当教員名(英語)	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧 : <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html</a> researchmap : <a href="https://researchmap.jp/tatimasa825">https://researchmap.jp/tatimasa825</a>					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	山本 奨、川上 圭一、田村 忠、中村 宗宏、佐合 智弘						
キーワード	省察、専門実習、理論と実践の融合、教職大学院						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻(教職大学院)のディプロマポリシー「専門性に基ついた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。なお、本科目は専修免許(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力」を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強み活かす課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> <li>・教育実践についての記述方法について知り、その適用の想定を説明できる。</li> </ul>						
授業の概要	専門実習にかかわり、必要に応じてすべての大学院生対象のレフレクション演習と、学卒院生と現職院生を分けてのレフレクション演習、プログラムごとのレフレクション演習を必要に応じて行い、教育実践に関する理論と実践の往還の機会とする。また、1年前期の学修を踏まえて、自らの研究課題をより明確にするとともに、課題解決に向けた研究方策を検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	必要に応じて、学卒院生と現職院生、各プログラムそれぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施する。随時の指示による。						
詳細計画(各回または週の具体的な授業内容、目標など)							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
2	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
3	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
4	【学卒】【現職】城南小公開に参加			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
5	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
6	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			



7	【学卒】【現職】子ども支援に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
8	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
9	【学卒】【現職】子ども支援に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
10	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
11	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
12	【学卒】【現職】子ども支援に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
13	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
14	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準（具体的に）						
カンファレンスへの係り方、意欲、態度、理解の程度その他、個別の指導計画レポート作成に至るまでの指導チームの教員との協議の状況等により総合的に判断する。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する（学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等）。 予めの準備は不要。					
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	1	時間割コード	FG04
授業科目名	教育実践リフレクション			担当教員名	立花 正男		
授業科目名：英語	Reflections on Educational Practices 4						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	金	2	FG04			
				【凡例】			
				: 当該科目 : 同時に履修すべき 科目(セット科目)			
主な対象学生	教育学研究科 マスター						
科目の情報	科目の種類	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	教職実践専攻の学生に限る。ただし、特別支援教育力開発プログラム履修者は除く。						
担当教員情報	氏名(カナ)	立花 正男(タチバナマサオ)					
	担当教員名(英語)	MASAO Tachibana					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	教育系総合教育研究棟-438					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧 : <a href="http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html">http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/646_ja.html</a> researchmap : <a href="https://researchmap.jp/tatimasa825">https://researchmap.jp/tatimasa825</a>					
	個人サイト						
相談可能時間	随時						
他の担当教員	山本 奨、佐藤 進、田村 忠、高田 麻美、土屋 直人、田代 高章						
キーワード	省察、専門実習、リフレクション、理論と実践の融合、教職大学院、教育実践研究報告書						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻(教職大学院)のディプロマポリシー「専門性に基づいた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	<p>実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。なお、本科目は専修免許(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「学校改革力・学習指導力・子ども支援力を修得するため」の科目に当たり、「学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力」「確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力」「的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力」を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強み活かす課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> <li>・教育実践についての記述方法について知り、そこから得た結果をまとめる。</li> </ul>						
授業の概要	<p>専門実習にかかわり、必要に応じて、すべての大学院生対象のレフレクション演習と、学卒院生と現職院生を分けてのレフレクション演習、プログラムごとのレフレクション演習を行い、教育実践に関する理論と実践の往還の機会とする。また、2年間の理論と実践の往還の学びの集大成として「教育実践研究報告書」をまとめる。</p>						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	必要に応じて、学卒院生と現職院生、各プログラムそれぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施する。随時の指示による。						
詳細計画(各回または週の具体的な授業内容、目標など)							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
2	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
3	【学卒】【現職】授業・子ども支援実習での振り返り			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
4	【学卒】【現職】城南小公開への参加			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
5	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			
6	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容			左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。			

7	【学卒】【現職】子ども支援に関わる内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
8	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
9	【学卒】【現職】子ども支援に関わる内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
10	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
11	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
12	【学卒】【現職】子ども支援に関わる内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
13	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
14	【学卒】【現職】授業力向上に関する内容	左記に関する予習・復習。ただし、授業担当者からの随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	25%	○			○
	随時の課題	25%		○	○	
	教育実践研究報告書	50%		○	○	
評価の基準（具体的に）						
カンファレンスへの係り方，意欲，態度，理解の程度，指導チームの教員との協議状況のほか，学卒院生の場合には2年次前期総合実習時と比較して個々の成長を見取ることとし，現職院生の場合には学卒院生への指導力の高まり等も含め総合的に判断する。また教育実践研究報告書を併せて評価とする。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する（学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等）。 予めの準備は不要。					
教科書 / 教材						
参考文献						
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	1	時間割コード	FH02
授業科目名	特別支援教育・教育実践リフレクション			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Reflections on Special Needs Education Practices 2						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード			
	1	金	1	FH02			
	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき科目（セット科目）						
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特別支援力開発プログラム履修者に限る。						
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月木昼 メール						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	省察、専門実習、特別支援教育、理論と実践の融合、教職大学院、反省的实践家						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基いた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	<p>授業や実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量的」を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強みと課題を説明できる。</li> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>						
授業の概要	授業科目や専門実習について、それらを省察する。省察は、課題レポートの発表を基にすすめ、その内容の検討とあわせて省察の方法自体も検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	学卒院生と現職院生それぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。また、必要に応じて学卒院生と現職院生が交流する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施することがある。随時指示する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容			予習・復習			備考
1	特別支援教育に携わる教員の養成と研修に関する現状と自己の関わりの検討			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
2	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討（４）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
3	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討（４）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
4	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討（４）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
5	反省的实践家としての探求課題の検討（４）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			
6	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討（５）			左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。			

7	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討(5)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
8	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(5)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
9	反省的実践家としての探求課題の検討(5)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
10	特別支援学校教員の実践を把握する観点とその検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
11	特別支援学校教員の実践における手立てとその検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
12	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
13	反省的実践家としての探求課題の検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
14	1年間の自己成長に関する省察(反省的実践家としての自己を教員育成指標に照らして検討)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準(具体的に)						
レポート及び協議内容では、実践知と理論知の関連への着眼と発展的思考があるか。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する(学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等)。予めの準備は不用。					
教科書/教材						
参考文献	ドナルド・ショーン、専門家の知恵、ゆみる出版、2001年、4946509267					
コースリザーブ図書						

年度	2023	開講学期	後期	単位数	1	時間割コード	FH04
授業科目名	特別支援教育・教育実践リフレクション			担当教員名	佐々木 全		
授業科目名：英語	Reflections on Special Needs Education Practices 4						
重複科目名							
セット科目名							
開講情報		曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
	1	金	2	FH04			
主な対象学生	教育学研究科 1						
科目の情報	科目の種別	大学院科目		科目番号			
主な使用言語	Japanese						
履修上の条件	特別支援力開発プログラム履修者に限る。						
担当教員情報	氏名（カナ）	佐々木 全（ササキゼン）					
	担当教員名（英語）	SASAKI Zen					
	所属	教育学研究科					
	常勤・非常勤						
	研究室	513					
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/822_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/iwa_ze					
	個人サイト						
相談可能時間	月水昼 メール						
他の担当教員	佐藤 信						
キーワード	省察、専門実習、特別支援教育、理論と実践の融合、教職大学院、反省的实践家						
学位授与方針との関係	この科目は、教職実践専攻（教職大学院）のディプロマポリシー「専門性に基いた問題解決能力」「研究成果の発表等」の達成に主に寄与しています。	学位授与の方針					
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	20%	30%
授業の目的	<p>授業や実習における実践的課題を講義で習得した理論を踏まえて分析し、課題の捉え直しを行った上で、カンファレンスを通して他者の意見を受け入れ、課題解決に向けて検討を重ねる。そのプロセスを繰り返すことで有為な資質を持つ教員として自ら成長する力を獲得し、各実習における経験を高度な実践的力量的の形成につなげることで「理論知」と「実践知」の融合を目指す。</p> <p>なお、本科目は専修免許（特別支援学校）の教員免許状取得に対応した科目である。「教員の養成の目標及び目標達成のための計画」の中の「特別支援教育力を修得するため」の科目に当たり、「特別支援教育に関する専門的力量的」を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践における自らの強みと課題を説明できる。</li> <li>・課題解決のプロセスを根拠に基づき説明できる。</li> <li>・教育実践における実践知を理論知と関連づけながら抽出できる。</li> </ul>						
授業の概要	授業科目や専門実習について、それらを省察する。省察は、課題レポートの発表を基にすすめ、その内容の検討とあわせて省察の方法自体も検討する。						
実務経験の有無と授業内容への反映							
授業の形式	学卒院生と現職院生それぞれに特化した内容について、演習形式で学修する。また、必要に応じて学卒院生と現職院生が交流する。						
授業時間外の学習/予習・復習	必要に応じて実施することがある。随時指示する。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）							
回/週	授業内容	予習・復習				備考	
1	特別支援教育に携わる教員の養成と研修にかかわる課題意識	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					
2	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討（4）	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					
3	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討（4）	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					
4	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討（4）	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					
5	反省的实践家としての探求課題の検討（4）	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					
6	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討（5）	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。					

7	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討(5)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
8	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討(5)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
9	特別支援学校教員としての自己の資質能力の検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
10	特別支援教育コーディネーターとしての自己の資質能力の検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
11	特別支援学校の組織人としての自己の資質能力の検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
12	特別支援学校教員の実践を支える組織運営とその検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
13	反省的实践家としての探求課題の検討(6)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
14	2年間の自己成長に関する省察(反省的实践家としての自己を教員育成指標に照らして検討)	左記に関わり実施。授業者の随時の指示による。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	演習	50%	○			○
	随時の課題	50%		○	○	
評価の基準(具体的に)						
レポート及び協議内容では、実践知と理論知の関連への着眼と発展的思考があるか。						
履修における留意点	参考書等は、適宜指示する(学習指導要領解説書及び児童生徒の教科書等)。予めの準備は不用。					
教科書/教材						
参考文献	ドナルド・ショーン、専門家の知恵、ゆみる出版、2001年、4946509267					
コースリザーブ図書						